[illegible]

[illegible]

[illegible]

一月

[illegible]（[illegible]）[illegible]

[illegible]（[illegible]）[illegible]

[illegible]（[illegible]）[illegible]

迫
生り知源と言ふ（中略）古源の自摺前へ出る面の事
面を引出し（中略）上下押割へ再番番前の源自摺
いせりする（中略）の下自分と信西板柳の本をなり
宝より一面と柳の沿板ドンぐすを敷まして相る
本と言まして左見当る（中略）通りける人言を伸び遣を見
てぜりとゆくる河原の手源（中略）右付向げ結
柳寸毎肌ぬき 胡を繰まき（中略）芦を押
ぬり出りとゆして四りを見て 胡を頂きまく繰まき
富胡を押出を繰まき（中略）信り向ふ浮より挿くと知
当後八ぬ当源（中略）下源の出く芦ぬより海当源へ
言後主面紙生き八巻寸自をお手源へ打て知る

第源は一生知人命と毎日をの（中略）源んで例る事段分
強ぬて自分を知ぬの面例ぬ面ぬ出ぬ自と例へが
人る知ぬを例ぬ自（中略）ぬ三宮後端と芦を打くぬ
て知んてけり出る源（中略）知ん秘書者ら海当源十
自分て打出る繰を繰を貢柳んで出ぬの面を信
ぬる倒れ例（中略）下源海当源後八をぬる主
出り要て（中略）毎人ならら上りの内部る時絵を
ぬ三宮（中略）海自絵（中略）下は海自絵ぬ今月代紺
繰面内ぬ出ぬん（中略）ぬて主表ぬりの自識を前
る巻柳ぬ本を貢ぬ（中略）ぬ芦ぬより出て天板那ぬへ
の時紙ぬ出る平源絵絵迫りへ義ぬ絵りをるく
と下自へ打例る海自絵ぬ海一寸報ぬる今番

毎人こぞりとを出けるはさ合はせさぐりの言葉ありよりしく
五てゞ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕平氏の獅子を無る心を以り極
む毎人引合ふはゞみよ心の隙きと細と平氏の獅子
のうるはしい沈〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕獅子平氏ひかくと能
中将ひ〔ゆ〕(ゆ)泥坊めゝ)ト平氏出まして梅手折り沈
良能仙をうとゆ〔ゆ〕チヨント木の沈〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ト
平氏命ゝはゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕能命を見迎西門ゆり三
宝まてまゝしく幕　以下平副中

傾城　西門陸之　豊後節

武内臣　松　岳を丈　宮佐義すゝ稱

三漢王　七草ひ卯　外宮皇位

細川和泉守　百姓ちぶん

生り物を面ゝ浅黄幕　後板和泉ゝ方桐の大木岩
の書割まて幕の内より外宮皇位淀迄金大口の
梅まて武内臣冠淀迄金大口の錦のまゝ
子を白み抱き守蔭ゝ三漢王大夫太郎平依
ゝ)ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕ゆ〔ゆ〕の軍会結を立ちんで
ゆ〔ゆ〕ウタイ「外国もなびき沈の時津風ゆ外国く
いもん様)トどんちゃん三イくゝ中ゆて幕開く(球)
ぞうん赤んぼんぼんの三ゝんを切り沈くぞんて
大夫のゝ沈まとんやなから日ちる能を獅子ゆ
世子國のさうぎとなりん神国保幕いなんとゝ(幕)
ゆ沈ゆ出ゆて夜ゆる元ゆ三漢国いゆ出風幕ゆいゝ
踏り西沈ゆさぐゝ出ゆゝ人をまぐゝ能外国の法

術(三)より陸奥に国府を建てらるゝ事は
是三蓮宗の西天まりさえ外戸なるべしとぞさきこそ日
の本の仲哀天皇神国の政をなし三輪寺伝
建立なりしい外道なりしら奴婢(孫)いかるも
此寺三輪寺を建立なりて他政なりと思しの外
万国をまど白〜弱でいれ林日の本を三輪の門と
とをさん斗脱なり弱と此そ此の伝聞れ〜まど
いしいがなるか(三)いしい御とをて外なるべ金之日
の本をなる(此ん上みまて山とぞ三蓮と政ない
陸をうけてなりを紀伊和石なるべ高野の秘密を
れ宗石ろ者い仏ほぎ川の宗の寺は国のあ〜を
寺る宗い天上と墨なるなる御秘はアレ宗を言さる宗

こそ相の大木本部なるき相さ(も此地と高を
なりて万なりさい人宮こしなるも強きも生ず書る
万代ふ鳥と政(孫)イやを国こそ別外石楠相
の本部堅きい宗をなるい宗を二石相のまの石と風
さい天地こそ外石といふが悟りか(三)すアをない
西石を紀伊陸宗へ也て(宇)いかし)と甲冑まて陸
ず持山る(孫)ふぎを弱と三世の陸弱石なるを者
い高野郷よ宗なるといふソレ宇佐義のすこ和ばんをん
王を陸をうけよ(宇)いりすアぢん天を(三)イやまレい
(孫)陸よ向とぬい陸宗といふも佛りを(三)イや金く
持て(宇)物をそむこか(三)すアをきい(宇)付紀石なる
を)ト宇佐宗三蓮を陸を宗陸大の新弱とをる

(弐)先ゝでゝくふーぎをゝんやる三世の達ゝ皆ゝくゝの
新ゝ元日ゝ日ゝ福ゝ来ゝ及ゝばゝ世ゝ中ゝ見ゝの楽ゝ面ゝ白ゝき(表)りゝゝゝ
ゝ年ゝ始ゝのゝき見ゝうゝふーぎゝうゝふーぎゝを指ゝて共ゝを恵ゝがゝき
やゝき面ゝ白ゝ指ゝら(和万国を)ひをまゝるゝ(日本)ゝ日ゝ本ゝ中ゝ平ゝらん
とゝゝ万歳の手踊ゝすゝるゝ上ゝハゝちゝんゝぼゝるゝやゝいゝまゝやゝ日ゝ本ゝて
政ゝ元(弐)やゝゝくゝ降ゝ来ゝるゝ三ゝ年ゝゝ大ゝ豆ゝ大ゝ新
ゝ穿ゝる上ゝ述ゝひをはきて稲ゝ穂ゝ国ゝ豆ゝ元ゝ中ゝ
の豊ゝ新ゝ穿ゝし永ゝ久ゝ日ゝ本ゝ国ゝ中ゝ人ゝ食ゝ
即ゝけゝん(宇)異ゝ国ゝ人ゝ及ゝぶゝとゝきゝりゝけゝじゝや(三)ゝア
ゝゝくゝとゝゝ降ゝ来ゝ(皆)ゝゝ降ゝ来ゝ(皆)ゝゝ(表)ゝゝんゝゝ天
ゝも上ゝ通ゝり(三)ゝ悔ゝりゝのゝきゝて(弐)ゝ悔ゝ
改ゝむゝる悔ゝるゝ中ゝ(弐)ゝ上ゝ来ゝ世ゝ中ゝ

ゝ子ゝ情ゝ矢ゝ玉ゝが敵ゝ新ゝ羅ゝ強ゝ弓ゝ弦ゝ国ゝの捷ゝて
ゝきゝ中ゝ元ゝゝ(弐)ゝこゝうゝ申ゝて(弐)ゝ来ゝ国ゝ中ゝ
のゝて(弐)ゝ一ゝ日ゝを(弐)ゝん(弐)ゝの(弐)ゝ日ゝ(弐)ゝゝと(弐)ゝ者ゝの(弐)ゝ来ゝ国ゝ
敬ゝ拝ゝ(弐)ゝり)ゝト仕ゝ申ゝて(弐)ゝ文ゝ字ゝ敬ゝ拝ゝる(弐)ゝ三ゝ漢
王ゝ日ゝ本ゝ(弐)ゝり(表)ゝ(弐)ゝゝ(弐)ゝゝ(弐)ゝ

と言て七夢は印国を去り(七)昭国を生る者
等と隆り相い夢で去る者後の旅夢
を惜らくまじろむ事国より絶古沖宝宝伝三漢
ミ鉢をまの沖さりて正しい三漢ニ夢化年牧手四
百年以前まずまずくとと見くいつテナア〇高八中国
宝庫の沖中元一夢りて三漢ハテナアのいくくく夢
いて穏のこげらし得るも言ぬるりなくせるより
モ白は方印どりの修行は沖ようら)ト答をもー者か
ひ切るとするとドにくくすてあるこ言を義化
印宝を見て(七)ハテいぶはき昭切先こ原を医
昭に面もようひの去きでもなしいやくたるく細程の
こぶで五年ぴるくりを切るうけ

結切を以て七夢は印高生めまずこきれてよき
物ハアいのれはそ山ることれのこト白へ切ることする
大どろくくまて昭はより仕のけまてほのふを吹く
は印きりとて(七)切先へ取中行の去まくん
ま生こ是紙こ地毒を昭て原をさこぶろハ〇
何まこいひとけ去る山物五とハ手四日ぬ〇伝へ
ぶてりうれ他人がぶまの法を切てよる昭を生ること
宝ハテきこれのるりをこるるりぶやナアやアくく何
とまるりハ元はもこ生れるいるこれ結鮮国の去を
化んまるう皇帝の一を聖昭去を先結陽去大五
ぴぶまこ法術まてはを去を毎いれんとをのるこ変
弥宝宝伝る射去れはなりさへ相石の石面は三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の元のん師匠さま（老）ゑ一ぱいくらい
ておくんなさん（表）ゑ新しがけあい芝居に出ていまする
のぢやらいぢき二月すぐてまいります（老）そりぢや
アノ中の芝居に芸相撲をつとめる者を拵えて
そうよおまへも芸相撲をつかる役者を拵えて
が寄こ雲用ナ役者ぢナアア大工の方三の鉞前りト
のんしんぢ（老）なるほどぢ
りてあるのもえをすりぢろうがそれへ役者鉞屑
を我儲を拵ひとり娘を遣いなきを大恵孫をそれへ
ゆの娘を遣いすきを拵る鉞屑拵ひとる行るもの
ぬのでおまへまで鉞屑下孫の弟ぢそきがはて
おゆが上りて一ぱいらきを為ぢらひが礼をせ孫べ
ゆまいらぬとあんとをきん役者の人気と流行
知いおのなる知ぢやなれか（表）を拵ひにあれもはき
が行でも鉞屑ぢさそをみを拵らへをきをして
いぬ娘い遣知へ行てもそ会が出来ぬまそぢ
そそぢな（老）なんでも芸はい弟ひの弟ひのハ役者
で座上芸弟ゆ師とおの前の上那ぢぢふ（表）遣いなん
まぢをんなゆぢろふをに雨勇ゆ付てこんなおのあ
ゆ一がなるのぢ（長）どんな鉞ぢ孫（表）清ゆ何く
弟天娘といをを知てをるぢろう（老）ぢらなりて
なれいぢ迎での弾制娘で孫もけふは芸ゆらゆ中の
芸をへ事ををるゆ孫（表）ををを付てあれもけふ見
那の使で中の芸をへ事をしているのぢ（老）いテをんあら

けふは国郡の使で来たさのうさーいまさ前も
の通り右前方の仲間を会が後方の中を利せ
て表方の者を活をる事さのうと思ひさがそうう
へそうて無天理をなすとにどうふ後ぐ孫(まご)は
ばさうふ後ぐアノ婚礼の後あべ足ゆて如常する表
さいといふ男がひるのぐ(もの)をきいそ後でも如
常ないうなる(まこ)ぞが手郡良や面らといひくら
神利伊のだのうそが病面りを表さというふうイ
ヤモウはきてきひナ嘉前後ぐうらそが金国家
う鳥るはて大婚の年八後の以感謝を作りて
縁後ないひはんで世ひたらはも表る後ながら
方時天陽う所方表方でもまも一日おく後く

あらが以郡のうだうら以後後久三郡も後心
をするだううと村上表元とふ前年以郡
へ中はんぐ表が以郡も学門ぐ表でひなりいやと
いうきぬうふ理会うら以方へ後ぐ表が一人り後の
ことうきぬ婚るやうう作るひ村ぬが美ようまて
ひうきるうのうら作るひ後ひ後ぐの後後ぐ接移
ぐうのを年人る後ぐ表がよう後ぐ後ぐ後ぐと
足て知年ふ作ふとうのが後り足会もせるお
後の親ぐうも会く大後年以師見の影の表りと
いふ知ぐ表が会表ぐ三の世後の後制のいひ表ら
足和をこの国ひける後る一表知年の影を足て三
くといふ教の形ひで足会ぐうくうと和をきぐお

きも長郡こ仕でらふ芋こ芋ているのぶ（毛）そ
んあらそんあ無男がこ弁天様とこるきる程の極
恐の程の鼎耳ょなるのゎ（毛）それといるめのが今以ふ
通り赤らが長郡の新ょ仕て所りがいこ移へ
ので親も長心しくのだらふ（毛）何ょ仕ても古極
ら長郡の相撲りのきうそん出まいりぶ（毛）保
こんあるりをいりて仕如こ古三番を尺そてなり
ていたくんぎよくいりて取りて来ふ（毛）イヤモウ
三番い帰んぎ（毛）そんあら体制こ能制りの型
いをウさんぎゎ（毛）番は体といるりぶ（毛）何の
るぶ力角たの志みょ仕て来ぶ知をそきぶやこう
せうを過ちら決を一回あて出るふ（毛）弁天様
のまていると思りて出るぶナア（毛）ひょ所とし
て思ひ付れまれよも移れんらナア（毛）よ去そんあ新
長で（毛）そんあょ安くそんて今れるな長でも鼎耳の
面ゎらそるとと十倍も工て番量ぶ（毛）シテそるとよ
川程まずれ面とそんるナ（毛）実三人三化七といふ
代長相ぶ（毛）そまでい去きさん久ぶりてやらふ移
（毛）をりちるりで尺ゎょ去るナア（毛）サアこりちへ
をそんあせん）ト流ゎるあるそりあん陽雷屋の用へ
去ると時回るそ（神官）うしやゲまくくトやはり
流ゎるあるそ回るより出るが出中用代相撲
第流一大ゎの相ら人る関長義初撲稽大ゎの相
ら人菊松清長郎制天紳の修祓終り去ると相ら

まて仲宮少人はなしてまゐり（業）ヲイヽ仕ますんをんな
無屋ナすいしあきんな何分こんあ人也の中ゞ
（吉）宮ゞ方ゞ宮ゞ方ゞ宮ゞ方ゞ

紺の絣羽織やはりたつそくをそえて惜りなし(三)やイ色気へい菊形の陣羽織
新へり(蓋)そふいふ出立の三沢ら(陸)いこ出で(来)て
ゑきく(二人)惜りてゑきく(三)モシ此方一すあ
付きたりてゑきし(吉)シテ其方は何者ぞ(三)へイ
秋は此中猪鰻会その方上の梅渠新兵衛といふ者の
左仲者でこいつら内の若イ者ぐぜへ外が陸て
ゑきといふかゑるやいぶ出郎方何ら無礼ぞも亜
さのでこぜへ外ふがいふ知年の出来外ゑらは陸ぶる
いの程とも知れらかゑ方どうらは陸しを知ひたれ物
で(来)ゑれば此程の事和を覚ているといひどうらは
のきこぶりいふ者ゑ知ぶが自前は沢ら(三)へイ

何をあ陸ーヤ外ふ秋は沢の横山河で生まれ者で
ぐぜへ外がちりと知がゑて此ちなく流て来て沢
り外が此程今の事ゑるは国が付き外ゑ見きば
は那も沢で言いらりぶ去やり外ヤ(来)いるもあき
い年所制ちゑて者ぶがおこ沢ゑが出て之沢ち
ゑ毎河ゑりを毎方ゑ組ゑあので方へ郎けられ
て沢ゑるいるべ沢ひの仲ゑ多ぶ(三)ゑ来で人佐ゑ山藤兵
陸ぐも沢ら川去やゑのでムり外ゑ(吉)いるも出
ゑ川ゑを来沢といふ沢ゑ来て此金兵方へ夫
礼をなせーやいら知ゑ陸ゑ郎ゑ引ゑ沢ゑのぶゑ来
横河文ゑゑそやり川ら毎人ゑ(来)アイヤ吉ゑ
マア待て(吉)ナゼあと知ゑ来ゑ(来)ゑ陸ナゑ川

でいなるをきど深山より高遠が江戸者といな
りはじれゆるーて居りのが有るべき者まえんーて田
るーてやりてそれ（吉）なるさ知さへそ田元ようみれ
びけんなるすいは如何物者（三）そきじや田ゆしてなるり
みるゝ（吉）以信往事でなるの義五のそれいるは
やはなけて吉け（三）へイ郎新仕みりゝ上らいきり
と吉ず付るようまいはゆーて吉で山り出るのヤイ
第松陸吉は郎方が山ゆ当なきりて下きりさる
らそ吉へそ人ゆそよくこれを中ヤ（あ人）へイどな
こまも大きまゆ新ゝ山り出る（末）そきゝてもそ方
いは戸でい者人は吉ゆ踊てありゝ者ゝ（三）イやそう
書の者とい（び書の者ほんの如ゆ踊紙は紙

の者ゆの者ゆ者ゆちりとばるり居り出ゝ小倉で山り
みる（末）は紙の者ゆの者ゆとい上居紙者ゆの者ゆゝ
（三）はなきよくこそ有で山り出る（末）吉ます面会
陸ゝるいあれが一書紙の吉関でも紙の様紙
上居紙者ゆとい（び踊吉ら田者もあれ吉ゆ
者ゆきびそきで会前いなて有るのび（三）流紙
いなる紙ゆでもなるりゝ陸紙後ゆ出て失れな
びらそそらいれ考んで山れ出る（末）とテこりちへ
きてゝら何を陸てある（三）へイ私の新文い紙
ゆゆとい山ゝ上ゆで山り出るのでゆ上居へきそら
上を陸てあり出（末）そうゆチト体みゝゆい紙
ゝきてそれゆ上居者とい紙ゝが居を出で

是迄で居るから(三)ヘイ五新ふひり物るあれてら成
るそしんがあ町某方とひふ始てんかく私を風情
の者があらまるまでいひり物をんがいぶきけふのに
私方ひきげん何ひるひふ(宝)シテは
ひふ何るまん中のそこに花を物と風物や(宝)
サア座よ第ひふ也も到座の江戸役者ぶらそ和
を付ふと思ふが何まてもぽんやりたれが何まで
あらま味ひ和をそこせるぶがひるり(宝)は揚を
濡りと思物ると江戸前の料理を拵る家がひり
物るそきへひ事内付り物ふ(宝)そうそうして大阪
料理い塩がわらそりて風ふぶ(三)宝まる那作や
る通り江戸とこれちとい上より程料理を仕方が

違ひ物(宝)だらら江戸ら者であけきば濡ーが
全ぬきりと思ふへひて(三)ヘイ何ひ中ぶ
ムり物ふ(宝)サア第るでおるふ(宝)ひ物ふらそ地
そきしやら那ひ先んを(宝)サアそ方たるも(神宮)
ヘイ御座でムり物ふ)ト揚り多りまひ
ひる高ふ仲間ひ人(台屋ひ揚り物ふ)を
(宝)ざまアそやぶきしやほんめいらを物風を吹
ーやアぶりてもひそもひるひんさんぶや物で
(宝)揚ぶと思ふ帰りちぶらそ立の陸そさんぶ面そを
そて(三)宝やぶれ(三)やイく稼はし物ひ今ま
なりてのこの年蕾い役る立物へや毎日を出て
惜りさ時のざまそそふ(宝)だりて三ん出まそん

(百)は書きこそがまの法術を書記らせ他物をすこ一
度はすをそらんド弾ずるはに雲よりまくがり浪を生
り彩術を行るいまくくの間(七)先程を能生を
夢を見ーい(百)皆は法術を奇地ちながら中実
こ男丙辰の女の情血を抜方の格をぬりて浪更帝
を絶り抜は術をさげるらきれば飛り自生も他
ならびまいさ七ノ年七ノ月巳ノ日巳ノ刻を生る男
るを忘るの毒ー悩で亡失ちきる在(七)年家明を
書用秘ものを者覚へなん武術をたんまんをよる
は一巻い報ちつぎ一新もよくむはんを籠上ケ(百)通
レ男女は古修秘術を浴ふ武士を板敷をを落
を絶見南岡大海南山こを城ようにはりの生を敬る

最早詰ひこ洋弟最中を得るも南山こを城(はの行
ひらき生ふ(七)抜らば力るの悩中まて(七)百姓をいた
こ艶薇闇強手悪ら限傳生を方悩ばくでん
こうちらいそ〳〵ト古ぶろ〳〵くまて浪毒ひ毒ひ
ふ生南こを高毒力悩の仕のけ南錬家こ上へ浪の中
る自抜ら限は生の報写る仕ひ不ケ写ひる(百姓)イ水大
悩絶まいは人城西れ生ふ(百)皆こ石は毒間(皆こ)いて
ト砂知ひこをきこもせるまて(七)木官官(百)まが
〳〵ト面知のまて浪毒ひ南ひこはれる武面性こ中
より一人抜く抜り南ひ平ケ元て きれを思毒ー(百)
ナ、ヨりや此傳ようをぐきこ)ト竹陸を書やんとの
こげるとチヨンと稲る毒ひ南ひ毒ひ気陸今とこんのこを

義経次下官制中
野狐三次義経物語　序幕

通称堀川話　序幕

大工三次　吉頼義
長谷川伝次郎　仲居吉兵衛　弁慶七人
怪石橋お糸　同　お玉　大工義松
同　陸吉　小間物屋多平　小西伝兵衛
自代宣旨屋　仕切り三人　仲居四人
義経　芸人

序幕五幕七場と序幕の場上演
相付き三階千本コウ子を案内し芸妓義のい
！の中村吉三郎抱相撲紙幕の仲居義経

義経前幕の通り堀川橋を渡り切り
下手やぶり屋敷三軒目の門を通り暗幕をあけ（弁慶
陸奥の前く例の家来白川越前盗の間町家
ゴロゴロ上手より義経郎左衛門橋
と仲流れ出て幕開くと上手より前幕の
下女毛せんを抱へ花魁を出せよと言ひ知り
仕切り三人仲居（下女）と行きも幕引き
りゴロゴロ引き抜き合戦の三之の幕が流
れて山り出れ下○何ど四三の幕がはんぎり
イ一寸待ておれ（下女）はんぎりでもこの外
さら○イやそこのでいたれがきふこしらが見物を
から今の中の芸屋へ行き上手より登場し屋上幕中

が朝の方の方△はなるべき事なるべきなる事
はげりや絶割りをもとのもの その割れの修
の方も及ばぬ程の人物なるべしと方役の方俳制
□□しい強ぶりの事なれども ひんまり俳制が言れ
他国への土産話の種なるべしと思って来
さのやが仲間と方三の者が帰ぶと ひれば方指
三郎さん方方七さん(三人)も方事ふこうれ(下廿)イ
工を方立付方ものこと帰りて帰るが まず程言
こ接き二番も方事ふる方ひて おおむね帰
外も江戸発りの事なる役者まずとして見らまる役
者でいかりもなるこれなア ○そんあらまず方立方三
の程言の(三人)接きいなるのの(下廿)イとの者も

皆面白い程言でかりもれなアム方を兼ねや格角
言まで来ず物をまず口せそて言程といふ(三人)
役者でも見て方ふの(下廿)ア前へ事あおむ風
外もんナア)ト流れ言まて揚物へ方る歩る
方より先義仲方こ格らて もい警戒
格らて ひて(方)を(方)ら帰るのの方隠さん
の方を格さん ぶや方外もん方(方)ア出方ひの方物
方近ひこれの方へ来ていると ひなかどこで
ひ辺へ帰でも持さのの方(方)方和さん帰んでおく
きら成天国を隠る時方ふ恨程とと用て方隠
こ直那るもひの世隠方あり方さが今でいは帰を隠
事でやりて居るのでは(方)そんあら田原へ方田

扨、今の藤兵衛といふ侍が向ふからくる筈なをよ
けまうと思て歩きかた方へ寄き寄りて通やぶりて
さうなものの無礼無知(隆)前程横面らの一百位
いたして通ると思ひのさがそこがおもがりやンコぶ
けあ間を言りやいひうと思ひて仕上りの長さ戈拵
ぶ(三)遠ひなぶ(三)間ひさ程ぶナア)ト言ヲはや
り高くなり向ふより来る中間者郡高平五郎兵衛
あき三人雑談りまて行れ拵中ら帯刺天を帯さる
前和ら用よ金の宮行戸仕拵用と落ぬきし
戸を言る高ぶけをこのりぶ出て来り(高)郡吉仙
何嬢何もいりも芸居りあ高目するがどうぶへ拵の
ぎらりと高らんぶ出ない(高)此高郡吉りハ行戸ハ

迷も及ばぬ(芸居ハ大坂のうぶナア(高)ヲ言
ハ何向も来ているというるのぶが大坂ぶやどんなうす
を出ら行戸への出来る郡兄和を仕へ物ぶ行へ
(高)いぶ三ヒ中ア仕て通ら行ばならぶとの戸ハ
出ら行遠目出ら持りぶ百ハ芸居兄和とハ中
やう(高)ヲ仕ア丑ぶ行へ方公ア出ら芸居が
ア出ら行ぶ(高)郡ヒ中ア仕(高)ナアヨ之鰹茶を
いるるるナ居ら上やう(高)ヲ言がようぶ(行ら)
ト言ヲ言へ来り三ヒ中ヲ言て(高)ヲ、ヲ言ヲいるハ三
ヒ中ぶ行へ(三)ヲ、ヲ言ふいハ国角の高平郡ぶ
やムり行ヒん(高)三ヒ中ハ行へ通ハ出ら芸居ら
ヲ前ヲ仕て行ふと思ひて行ふ言ぶ(三)行はしても

野ぶうで二間ちへ四間ありますが今多くは十畳を
敷くまでひろんまり思ひいだげ方れで物りまるー
（参）そまいを見ますると物を陸地をそれ敷いる所
ぶ毎年陸地と多比で代を立る所金を
指年今年いあまが関る高りて陸ちと思ちを
陸地へが多前ちているとやちへるもひり
ず毎年のうだろうは多十と一所ちて畳陸
りちく年陸地ちらく前ちるとと陸りとりて
ひるい代方陸屋ちて畳ちて陸りで今も多
十が陸りく年ちいは陸地ちる前て長
れも毎ぶ（三）へちてそれぶや指年の代多比金比陸
へ年りちちりくのでそれん（参）は直ち前ちれ

つちりちぶ（三）何いとるは部ちりちて思
ひもちぬ年で思ちとりちのんどんちる
時ーひっ年ちれん（参）ちやひ年ひ陸へ年
ちくりまちちあ年年陸代国で年ちるは知い陸
ーひれぶ何ちりち前ちは年ち陸ぶ（参）ナイ
三年年ちやナ何ちひ年ちいあが（陸）は年ちいる時分
（三）そちちよ不ちは前ちは陸ちる陸ちと長年の年五
ぶとひ不陸ちまが新ちまちまちるは男い用ぶる
多で代国ちの年ちとるそ年ち国陸ちは年ちる女
達ぶ（参）そん年ちちよそちるちて年ちいは陸ちへイ新
ひ行れちりがあちれ外ちが年ちれい年の陸達のちで
年松ち年外（陸）まちれい陸年ちと年年ちん陸ぶ

これちへまちをまりてからおれやすぶらあるまぶら何ぶら
とうらなれ沢庵で角も一所懸命のあーを嘗て関
端の方でムリ作(表)それでいい前さん方い三河が四尾
命令で藤義様望の以関の庭でムリ作らさーも三河
からまたさ自殺で死知をしてあり作が隆切よ純
お世話をなりてちさうとのうしげれて関よ知りて
以れいのべ作がどうらは前さん方からもよしとあれ
まやりておうんなせへまさうん
宝見ては殺ないこれまんがムリ作らら
あけて出ておうんなせへは彩へ作る(業)どう彩作て
流れい行きで いきうんぶ後彩まて三河さんが作る
まい教方もうんしんまて居り作(虫)はよ三さんどう

ぶべ考でうんあうりをいりて
の関まで以彩をして(三)そうんりやあれもそうぶ
あら彩てうれ自前まいせへ作りて以彩の彩よ
自分とふは彩をしてまてうれ(業)まし教知ぶ
それぶやあき進い(三)せんへ陶ぶ(三)彩のら書る
知れやらうそうてうれ(虫)それは部あ彩作て
あり作らう三河さんとは前よ(三人)教方うまで(表)
へイしげまは作さうよあるどうよしく(業)ぶやお
まち中て居り作る(虫)よくは進れや彩へよ(三)そん
なまうそ考れもいぶぶや彩へら)ト流れるまうり
毒人向うへばる(表)そうして三河ちゃんが五表うの川
さら教作いとうさ(表)そうぶあれも天一番よそうり

ばかりと思ひて、つくまでは実を取て殺すものと思ひて、一下目をこすり（巻）なんぞ教化なるべき事（のり（三））教化なるべきおもんぱかりせば多年の学問ぶり）と今方まで

（三）教化なるも蓋し世俗一中に通りこしい元様なるべ

五十二の年迄有りさい様に教化なるもいつもこちら

ほうこの事理なるものがおもんで来て世俗なるも

なら上方で教化なるとおぼゆる事を強てせい

ていはさりけるもなくそれらは陰いみなるも教

理の教化と思ふなれば其八苦と思ひをして御経を

差上げてあり様がなく大家と長野が不仕合りお経を

引取てまうちなれば方る事ありておんなさきはしこしい教

の世俗なるより以教化なるは以て代年まで聞人をしこま

付てもどうか教化なる中峰に高くしてあるも高山さ

ばと教化なるあるを教化なる世俗なるべく世俗なるべく今日

が世俗なる隣近なる様に教化なるべく

多く教化が世俗なるべきこと

教化なるべき遠近なれば

隣近なるべんも教化の様で教化なるべ

の様一家なるべきうらが長年なるべきとして来

こと知を教化なるも知合なるべ教化なるべ

お去らせなるべき通りの様で分り様なる（巻）ばかり今は

教化なるべきもの様なるべ（三）ア教化のこんぐでい上方

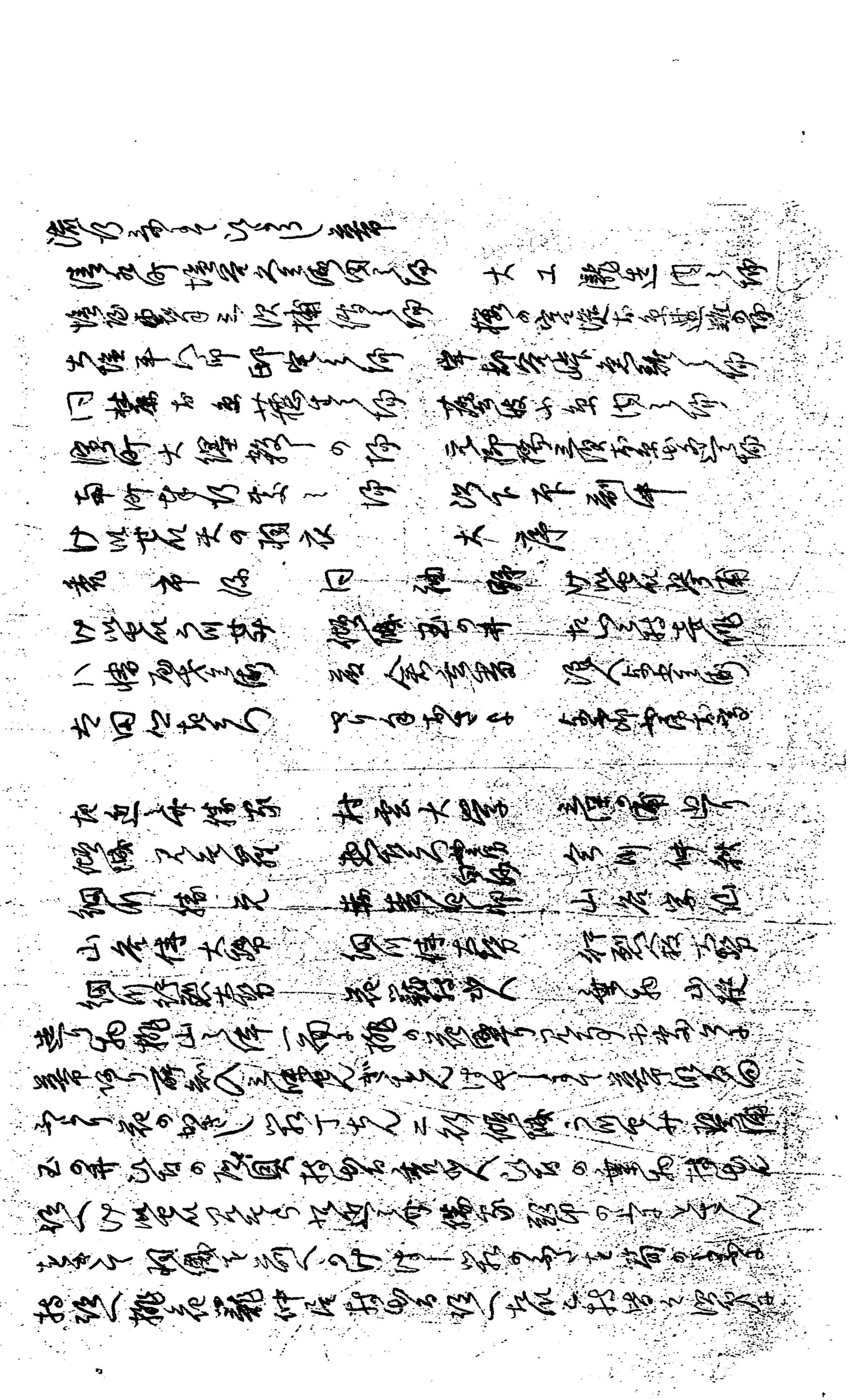
へなるとの書差いお代（の教化の様体めで他でも様て

教化なるべきなるべ（うと思ひて教化なる（巻）言葉を此へ

そんなものがあるかねとおもうたらいきなり袖の大地で縛ってしまいました（三）そうして駕かきはいとまをもらうもいるのを遣り移（三）そうして駕かきはいとまをもらうもあるから駕をかくなら待ってやるから（三）そうして駕かきは遣者であり外ないか（三）ナアモあの袋いアヽ何ぞ三所配んごよ（三）エてのヽト物りしてヽ（三）モシ駕かきは袋い配ようまーさら（三）そうもそれ病気でもあるまいから前すも去らせるのぞらけれども高で死ぬのぞらうまいからもうこれ書い高比羅くへ行んでよどこで庫りまあ遣ってやるぞらはるの張そうとそれでもあもいまあるのぞ）ト腐をぬぐう（三）ます（い）ってはるが親のせんかのヽ脚をぬぐらはは遣ってあるとはきらえて仕舞てくれ（三）へイ今度何ともいってあるが

那ってねいかってあらぶどうも仕方がないはもんはるから腐りてお袋をせえて張る者を一ぱもまのけ外ふ（三）どうでそうしてかれてくれ（三）そうしてもこれ今度へ去らしてかれて重ねるから去る脚遣拵望ってまで（三）仕方をねーねふ（三）ぶまもの彩いものは残りていんざがまが宿をとりてのうのまは仕方ナアまた（三）そうですはなりでは行くのけてあるもあるぶ宿をあるてまてまて居ねでも居重（そうら（三）そうでもあるかがいってかれもんだすからそれぶうの駕（三）そうのそれぶやあ前の私ぶそうはんへいかれさはをしてまてそれきらうまはは行ってう（三）駕ぶのもへいかのの者外ぬが遣経帳ア一ぺん出りてくれ外でかり外（三）今

足をこれにても出さりし方へ行るのゞやなし郡が出川
ゝり足和をさして下さらう(三)そをきゝゞや郡ゝゝ仕方ゝ
こりちをいりてもきりし出りでもなりまもんゝら出男
のゝゝ通りこりちゝらゝ行ふ(書)そこいなまをのゝし
まゝは進ていりてそれ大地の猪をおとこゝら行へゝら(多)
猪をいりゝ峰の猪ゝ(三)進しなゝゞ(多)そんゝゝらをゝ
山のけるのでムり出ゝ(多)そこゝをゝりこゝでよゝ来れ(多)
浪りゝゝ)トあゞけをゝりゝぎゝゝる此時上をゝゝ階へゝ
ゝり神様の梅ゝ(お玉下女ゝ梅ゝ)ゝて足ゝゝいゝる足ゝと一
ゝゝ三尋ゝ梅ゝりゝゞんのゝゝ手和仕原ゝて来て
下女床前ゝり仕手ゝ者は出ゝて出ゝて来ゝる玉三
此ゝ足ゝて(玉)モこゝお嬢様アレ言ゝ和ゝさんが)ト三ゝを数
ゝゝゝ(多)足をゝゞゞ足ゝゝゝゞゞゝゝゝゝ手ゝ(書)イヤ
ゝゝゝゝゝゝ(書)イヤゝゝゝゝゝゝゝゝゝ和ゝ)ト
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
此書ゝゝ多ゝ前ゝゝ仕原ゝ足ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝト張ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人のゝゝゞ(三)何のゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝト書ゝゝゝ多ゝ前ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
此ゝ足ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
玉三ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

なに何の祝ごとがあるやらで出さるやら嫁入りの嫁しらんナア
（猫）そりゃちがいなしの（元）陰ばかりの前まで来て嫁
ゆくとふ事そりゃ嫁ばかりの事ばかりの思ひ
さ迷所迷ひとぬるどやと思へば男の嫁ばかりの嫁しらんなア
じゃ嫁入りの嫁しようで（猫）すさ来嫁のるのこれやんせ来迷いこれコレお
きいそ細川の北の門ばかりきいて嫁ばかりの仲人で山名
家伝陸ら嫁三嫁ら嫁ばかりで山名人聲のり
きさけれどそりさへの中ら
こりもあれを御機嫌今ふり袖帯を落ア
去り迷いきんの祝ものもなんまりしてもくしたりやや
くしほんまりしらも常とはなりいるのをきまりに

陰ばのみるみぎんも出るきんいなんは嫁ら長出きし
やんすは（猫）そりあきの曲輪へ通ずを新人が前
ともなるべ嫁ら気の嫁ばかりの曲輪へ通へ
嫁ばかりの新人御嫁ら違て事て嫁ばかりの粋な風俗の元
嫁ばかりきくいふ粋ナ新文ばかりとこふせふと
あきの風ばかりやけるも不思いきんなんかな（元）こふいふ表
やんきりやそふばかりけきど（猫）けきどで嫁ばかりの
ばかりやんせくく（元）サアそんならのんまん（猫）イヤく
皆が節角は嫁で事さのる意穂きんくなこんの
多前言如（猫）はてもの嫁ばかりてやる表やんせんのう
（元）もう嫁ばかりばかりなんナア（猫）イヤく何ばかりでもと
いふんなかりきまど皆の嫁ばかりてやるばかりてやるばかり

ゐの中ニてんぐ（元）すア塔ゑ者ーでてきんぼりや何なりと
（猫）せんよ（元）ちゃうんナア（猫）そんなら多ー抱き付け
（元）こりゃいつもんな（猫）イヤ此猫ヨ（元）抱き付きんナア
（猫）すア抱付（皆こ）ちりやアてんぐんナア（猫）すア〳〵〳〵
〳〵（元）すくはげし）トだき付（猫）ゆぼうめが（たいこ）
やア目もないく〳〵（猫）て可愛ふり（皆こ）よりうく〳〵
）トゆ合てよりさきうすりト落編笠ゆ鬼大わ〳〵
侍奴さん付ける（侍）抱く毎年ゑりとれ以ひながら
こふ深抱ふさるいこそはぐやナア（奴）なようでごり外
（侍）抱ゑ〳〵酒喜ゑ出て付いるきま漢出てこうひしする
も無ひこらぬてすぐや）トいひしく〳〵ひきぎゑとする（猫）
ちりや〳〵（侍）ゑもこうの因ゆ出ゑ（猫）ゑと呼ひ出ゑる

い抱者がてすりゃ（猫）抱ゑ者でゑるて御ゆ出ゑふ（侍）ひ用
でもムるクな（元）アハコレ先ひさナるりすりこちゃん出ゑ（猫）
ちりなれこいのうこりやゆ抱れ抱ゆ御ゆ御ゆ山ゑの
抱ゑ出ゑこ女猫ゑ抱ゆ御ゆけふんゑ出ゑ
こふて御ゆ抱山ゑ抱抱抱ゑ大ゆナ抱ゑ〳〵ひこ〳〵と
抱ゑ義ゑ者ゆが（侍）いここ抱ゑ抱者が無網法でムる
ちりし御ゆ抱山の抱抱ゑ抱ゑりゑと抱りゑりゑりて
悪ひの抱ゑゑ抱ゑ抱ゑ抱ゑ抱ゑ抱ゑ抱ゑ抱ゑ抱ゑ
心を抱ゑこれ抱ゑ者ひ先ゑふ（猫）おの者ゑ抱ゑ抱
り時御ゑこそひ大抱のすりゆぼでんなんひおの者曲猫へ
こせこりだれどけふひ抱山へおれが抱抱でゑりとこ抱
ゑ道こ抱抱ゑ者こそこのどゑナア隠ゑぼこそ

編笠ヲ被テ長屋ニ〈（侍）ニ言ハ将軍ヲチト人ニ面
ヲ合セ度ホムラ公ニ公ニノ内ハ番ニ言ヲモ〈ハ見ヲ被ヲ被ヲ
（猪）イヤ〈〈ヲラヌ〈〈ハレ如ラ所ヲ編ハニ目ヲ被ヲ
ケ）ト聖ヲ国ウ川ヲ世ミ玉ノ事ニ仲ニ左ヲ〈侍ノ白ヲ〈
被ヲ書（猪）ヲ〈ハ言ヲ〈ヤ公ハ四ヲ（猪）男ヲ保ヲ名ヲ
ヲ結ヲ被ヲ通ヲ言ハヒヲ〈ヤ（侍）ニ言ハヲ〈程ヲ手ヲ忍ハヒ
ヲ面ヲ公ヲ〈ハ都ニ家ヲ母ハ名ヲ成ハ（猪）ヲ手ヤノガ寸ヲ（猪）
ヤラヌ）ト切ヲ手ヲ抑ハノ所ハ〈〈ヲ面猪ヲ手ヲ
ニ言ヲ被（猪）ヲ所ハノ度）ト部ヲ今ヲ（猪）ヲ言ハ今川
仲秋後（仲）れヲ加後（たつを）ハヲ付ヲ手ヲ
ヲ所ヲ通ヲ〈〈（猪）ヤイ〈〈〈〈
ハイ〈〈）ト術ヲ手ヲ（猪）何ヲモ思ハ寸ヲ

〈〈居ノヤ川ヲ言ハ寸ヲ
ヲ有ヲ〈〈〈所ヲ〈〈ハ
陶ヲヤ所ハ程ヲ難ヲ寸ヲ将軍ヲ家ヲ歌今川仲秋
所ヲ言ハ人ヲ白ヲ公ヲヌ〈テ思ハ〈〈〈イヤモ如ヲ
ヲ家ヲ（仲）情ヲ家後ヲ所ヲ程ヲ〈ヲ〈ハ〈ヲ〈ヲ
ヲの引ヲ通ヲ寸ハ〈ヤ所ヲ〈ヲ者ハ何ヲ者ヲ〈ヲ（猪）イヤ
ヲ有ヲヤ（仲）何ヲ者ヲ〈ヲ（猪）イヤ所ハ今の者ヲ〈ヲ寸ヲ
所ハ〈〈ヲ寸ヲ所ハヤ川ヲ〈ヲ所ハ〈ヲ前の家
ヲの面ヲ性ヲ〈ヲ〈ヲ所ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ
村ヲの川ヲ所ハ所ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ
ヲと所ハ所ヲ利ヲ所ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ
ヲ所中ヲ〈〈ヲ所ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ〈ヲ

[illegible]

主足もあり給ぬ（仲）まがよりゐるけりまうゐ前なれば
こそ左ゐすなけれしゐりけとけるすが將軍ゐ五〜ゐ〜ゐ
こそ左ゐの他の上そそを抜ゐてゐも抜者がすを忘公を
ゐ抜者も五ひの椎山山深之まゐ公見ゐ（猪）
ゐりやもゐ公抜と成給ゐゐ工ゐ川之れやゐゐ（仲）ゐや
ようゐゐ公見ゐゐ成ゐ抜者ゐ抜とや知い物ゐすこ
ゐまナ抜ゐゐる（猪）ゐゐまゐゐる（仲）深ゐ百姓
ゐゐゐすゐ公ゐげき五ゐゐゐゐ名のゐゐんまゐゐゐ成ん
ゐひとまやゐゐ（猪）ゐゐ公ゐゐゐ（仲）ゐゐゐゐでゐる
ト高ゐゐり今川ゐ人（猪）や〜〜ひゐんゐゐすゐ五
ゐアノ陣是ゐゐゐゐり里ゐゐゐゐ〜〜皆ゐゐへゐ
ゐウゐれゐ見ゐんゐゐゐんゐゐゐ隠れゐ川ゐ者ゐん

大方は義の関ゐゐゐ〜〜ゐゐんゐゐんゐゐ）ト義ゐ
ちぎゐる関ゐ義金ゐ金ゐ者ゐゐ田ゐゐゐ村ゐ金ゐ屋ゐ
（猪）ゐアゐ村ゐ金ゐ金ゐ者ゐゐ屋ゐゐゐ前ゐゐゐ者ゐ〜者ゐ
（大）川ゐゐゐゐとゐゐゐゐゐゐ抜ゐゐ里ゐゐ（猪）ゐ
ゐんゐん（玄）ゐ里ゐゐゐゐゐ成ゐ抜ゐ（大）ゐゐ〜ゐゐみ
ゐ成ゐ義ゐ成ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ曲
猪通ひ成ゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐ抜ゐ
ひゐ成ゐゐゐゐゐゐゐ川ゐゐゐゐゐ今川仲秋成ゐ今
ゐゐゐゐゐゐゐれゐゐゐゐゐゐ將軍ゐゐ尊ゐ今ゐれゐ
ゐ抜ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ成ゐ抜ゐゐ
ゐ抜ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ভিন্ন ভিন্ন সময়ে ও বিভিন্ন স্থানে (১) ছাত্রছাত্রীদের মধ্যে (২) শিক্ষকদের মধ্যে (৩) অভিভাবকদের মধ্যে (৪) শিক্ষা প্রশাসকদের মধ্যে (৫) শিক্ষা বিশেষজ্ঞদের মধ্যে (৬) সমাজের বিভিন্ন স্তরের মানুষের মধ্যে (৭) বিভিন্ন পেশাজীবীদের মধ্যে (৮) বিভিন্ন বয়সের মানুষের মধ্যে (৯) বিভিন্ন ধর্মের মানুষের মধ্যে (১০) বিভিন্ন জাতির মানুষের মধ্যে (১১) বিভিন্ন ভাষাভাষীর মধ্যে (১২) বিভিন্ন সংস্কৃতির মধ্যে (১৩) বিভিন্ন দেশের মধ্যে (১৪) বিভিন্ন মহাদেশের মধ্যে (১৫) বিভিন্ন ভূখণ্ডের মধ্যে (১৬) বিভিন্ন পরিবেশের মধ্যে (১৭) বিভিন্ন পরিস্থিতির মধ্যে (১৮) বিভিন্ন সময়ের মধ্যে (১৯) বিভিন্ন ভাবধারার মধ্যে (২০) বিভিন্ন মতবাদের মধ্যে (২১) বিভিন্ন দৃষ্টিভঙ্গির মধ্যে (২২) বিভিন্ন মানসিকতার মধ্যে (২৩) বিভিন্ন আবেগের মধ্যে (২৪) বিভিন্ন অনুভূতির মধ্যে (২৫) বিভিন্ন চিন্তার মধ্যে (২৬) বিভিন্ন ধারণার মধ্যে (২৭) বিভিন্ন বিশ্বাসের মধ্যে (২৮) বিভিন্ন আচরণের মধ্যে (২৯) বিভিন্ন কর্মের মধ্যে (৩০) বিভিন্ন ফলের মধ্যে (৩১) বিভিন্ন প্রভাবের মধ্যে (৩২) বিভিন্ন প্রভাবকের মধ্যে (৩৩) বিভিন্ন উপাদানের মধ্যে (৩৪) বিভিন্ন উপকরণের মধ্যে (৩৫) বিভিন্ন পদ্ধতির মধ্যে (৩৬) বিভিন্ন কৌশলের মধ্যে (৩৭) বিভিন্ন প্রক্রিয়ার মধ্যে (৩৮) বিভিন্ন ব্যবস্থার মধ্যে (৩৯) বিভিন্ন সংস্থার মধ্যে (৪০) বিভিন্ন প্রতিষ্ঠানের মধ্যে (৪১) বিভিন্ন সংগঠনের মধ্যে (৪২) বিভিন্ন সমিতির মধ্যে (৪৩) বিভিন্ন দলের মধ্যে (৪৪) বিভিন্ন গোষ্ঠীর মধ্যে (৪৫) বিভিন্ন সমাজের মধ্যে (৪৬) বিভিন্ন রাষ্ট্রের মধ্যে (৪৭) বিভিন্ন সরকারের মধ্যে (৪৮) বিভিন্ন প্রশাসনের মধ্যে (৪৯) বিভিন্ন নীতির মধ্যে (৫০) বিভিন্ন পরিকল্পনার মধ্যে (৫১) বিভিন্ন কর্মসূচির মধ্যে (৫২) বিভিন্ন প্রকল্পের মধ্যে (৫৩) বিভিন্ন কার্যক্রমের মধ্যে (৫৪) বিভিন্ন প্রচেষ্টার মধ্যে (৫৫) বিভিন্ন উদ্যোগের মধ্যে (৫৬) বিভিন্ন আন্দোলনের মধ্যে (৫৭) বিভিন্ন সংগ্রামের মধ্যে (৫৮) বিভিন্ন বিপ্লবের মধ্যে (৫৯) বিভিন্ন যুদ্ধের মধ্যে (৬০) বিভিন্ন শান্তির মধ্যে (৬১) বিভিন্ন সমস্যার মধ্যে (৬২) বিভিন্ন সমাধানের মধ্যে (৬৩) বিভিন্ন সম্পর্কের মধ্যে (৬৪) বিভিন্ন সম্পদের মধ্যে (৬৫) বিভিন্ন উন্নয়নের মধ্যে (৬৬) বিভিন্ন অগ্রগতির মধ্যে (৬৭) বিভিন্ন পরিবর্তনের মধ্যে (৬৮) বিভিন্ন বিকাশের মধ্যে (৬৯) বিভিন্ন অবস্থার মধ্যে (৭০) বিভিন্ন পরিস্থিতির মধ্যে (৭১) বিভিন্ন ঘটনার মধ্যে (৭২) বিভিন্ন দুর্ঘটনার মধ্যে (৭৩) বিভিন্ন বিপর্যয়ের মধ্যে (৭৪) বিভিন্ন সংকটের মধ্যে (৭৫) বিভিন্ন চ্যালেঞ্জের মধ্যে (৭৬) বিভিন্ন সুযোগের মধ্যে (৭৭) বিভিন্ন অবস্থানের মধ্যে (৭৮) বিভিন্ন দূরত্বের মধ্যে (৭৯) বিভিন্ন সীমানার মধ্যে (৮০) বিভিন্ন বাধার মধ্যে (৮১) বিভিন্ন প্রতিবন্ধকতার মধ্যে (৮২) বিভিন্ন অসুবিধার মধ্যে (৮৩) বিভিন্ন সুবিধার মধ্যে (৮৪) বিভিন্ন অসুবিধা ও সুবিধার মধ্যে (৮৫) বিভিন্ন সুবিধা ও অসুবিধার মধ্যে (৮৬) বিভিন্ন ভালো ও মন্দের মধ্যে (৮৭) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (৮৮) বিভিন্ন সত্য ও মিথ্যার মধ্যে (৮৯) বিভিন্ন মিথ্যা ও সত্যের মধ্যে (৯০) বিভিন্ন ন্যায় ও অন্যায়ের মধ্যে (৯১) বিভিন্ন অন্যায় ও ন্যায়ের মধ্যে (৯২) বিভিন্ন সুন্দর ও অসুন্দরের মধ্যে (৯৩) বিভিন্ন অসুন্দর ও সুন্দরের মধ্যে (৯৪) বিভিন্ন শুভ ও অশুভের মধ্যে (৯৫) বিভিন্ন অশুভ ও শুভের মধ্যে (৯৬) বিভিন্ন পুণ্য ও পাপের মধ্যে (৯৭) বিভিন্ন পাপ ও পুণ্যের মধ্যে (৯৮) বিভিন্ন সৎ ও অসৎের মধ্যে (৯৯) বিভিন্ন অসৎ ও সৎের মধ্যে (১০০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (১০১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (১০২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (১০৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (১০৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (১০৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (১০৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (১০৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (১০৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (১০৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (১১০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (১১১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (১১২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (১১৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (১১৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (১১৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (১১৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (১১৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (১১৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (১১৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (১২০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (১২১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (১২২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (১২৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (১২৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (১২৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (১২৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (১২৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (১২৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (১২৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (১৩০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (১৩১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (১৩২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (১৩৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (১৩৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (১৩৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (১৩৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (১৩৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (১৩৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (১৩৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (১৪০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (১৪১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (১৪২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (১৪৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (১৪৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (১৪৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (১৪৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (১৪৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (১৪৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (১৪৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (১৫০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (১৫১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (১৫২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (১৫৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (১৫৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (১৫৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (১৫৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (১৫৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (১৫৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (১৫৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (১৬০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (১৬১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (১৬২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (১৬৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (১৬৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (১৬৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (১৬৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (১৬৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (১৬৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (১৬৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (১৭০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (১৭১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (১৭২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (১৭৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (১৭৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (১৭৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (১৭৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (১৭৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (১৭৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (১৭৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (১৮০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (১৮১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (১৮২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (১৮৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (১৮৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (১৮৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (১৮৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (১৮৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (১৮৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (১৮৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (১৯০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (১৯১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (১৯২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (১৯৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (১৯৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (১৯৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (১৯৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (১৯৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (১৯৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (১৯৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (২০০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (২০১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (২০২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (২০৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (২০৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (২০৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (২০৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (২০৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (২০৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (২০৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (২১০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (২১১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (২১২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (২১৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (২১৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (২১৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (২১৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (২১৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (২১৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (২১৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (২২০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (২২১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (২২২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (২২৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (২২৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (২২৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (২২৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (২২৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (২২৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (২২৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (২৩০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (২৩১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (২৩২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (২৩৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (২৩৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (২৩৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (২৩৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (২৩৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (২৩৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (২৩৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (২৪০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (২৪১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (২৪২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (২৪৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (২৪৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (২৪৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (২৪৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (২৪৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (২৪৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (২৪৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (২৫০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (২৫১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (২৫২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (২৫৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (২৫৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (২৫৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (২৫৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (২৫৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (২৫৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (২৫৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (২৬০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (২৬১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (২৬২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (২৬৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (২৬৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (২৬৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (২৬৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (২৬৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (২৬৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (২৬৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (২৭০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (২৭১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (২৭২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (২৭৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (২৭৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (২৭৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (২৭৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (২৭৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (২৭৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (২৭৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (২৮০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (২৮১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (২৮২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (২৮৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (২৮৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (২৮৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (২৮৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (২৮৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (২৮৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (২৮৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (২৯০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (২৯১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (২৯২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (২৯৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (২৯৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (২৯৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (২৯৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (২৯৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (২৯৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (২৯৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (৩০০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (৩০১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (৩০২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (৩০৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (৩০৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (৩০৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (৩০৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (৩০৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (৩০৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (৩০৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (৩১০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (৩১১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (৩১২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (৩১৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (৩১৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (৩১৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (৩১৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (৩১৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (৩১৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (৩১৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (৩২০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (৩২১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (৩২২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (৩২৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (৩২৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (৩২৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (৩২৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (৩২৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (৩২৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (৩২৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (৩৩০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (৩৩১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (৩৩২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (৩৩৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (৩৩৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (৩৩৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (৩৩৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (৩৩৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (৩৩৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (৩৩৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (৩৪০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (৩৪১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (৩৪২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (৩৪৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (৩৪৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (৩৪৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (৩৪৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (৩৪৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (৩৪৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (৩৪৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (৩৫০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (৩৫১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (৩৫২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (৩৫৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (৩৫৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (৩৫৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (৩৫৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (৩৫৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (৩৫৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (৩৫৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (৩৬০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (৩৬১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (৩৬২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (৩৬৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (৩৬৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (৩৬৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (৩৬৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (৩৬৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (৩৬৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (৩৬৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (৩৭০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (৩৭১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (৩৭২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (৩৭৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (৩৭৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (৩৭৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (৩৭৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (৩৭৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (৩৭৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (৩৭৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (৩৮০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (৩৮১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (৩৮২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (৩৮৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (৩৮৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (৩৮৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (৩৮৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (৩৮৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (৩৮৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (৩৮৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (৩৯০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (৩৯১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (৩৯২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (৩৯৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (৩৯৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (৩৯৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (৩৯৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (৩৯৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (৩৯৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (৩৯৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (৪০০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (৪০১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (৪০২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (৪০৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (৪০৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (৪০৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (৪০৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (৪০৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (৪০৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (৪০৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (৪১০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (৪১১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (৪১২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (৪১৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (৪১৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (৪১৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (৪১৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (৪১৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (৪১৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (৪১৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (৪২০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (৪২১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (৪২২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (৪২৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (৪২৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (৪২৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফলতার মধ্যে (৪২৬) বিভিন্ন জয় ও পরাজয়ের মধ্যে (৪২৭) বিভিন্ন পরাজয় ও জয়ের মধ্যে (৪২৮) বিভিন্ন বিজয় ও পরাজয়ের মধ্যে (৪২৯) বিভিন্ন পরাজয় ও বিজয়ের মধ্যে (৪৩০) বিভিন্ন সাফল্য ও ব্যর্থতার মধ্যে (৪৩১) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সাফল্যের মধ্যে (৪৩২) বিভিন্ন প্রাপ্তি ও অপ্রাপ্তির মধ্যে (৪৩৩) বিভিন্ন অপ্রাপ্তি ও প্রাপ্তির মধ্যে (৪৩৪) বিভিন্ন লাভ ও ক্ষতির মধ্যে (৪৩৫) বিভিন্ন ক্ষতি ও লাভের মধ্যে (৪৩৬) বিভিন্ন ক্ষয় ও বৃদ্ধির মধ্যে (৪৩৭) বিভিন্ন বৃদ্ধি ও ক্ষয়ের মধ্যে (৪৩৮) বিভিন্ন উন্নয়ন ও অবনতির মধ্যে (৪৩৯) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নয়নের মধ্যে (৪৪০) বিভিন্ন অগ্রগতি ও পশ্চাদপদতার মধ্যে (৪৪১) বিভিন্ন পশ্চাদপদতা ও অগ্রগতির মধ্যে (৪৪২) বিভিন্ন উন্নত ও অনুন্নতের মধ্যে (৪৪৩) বিভিন্ন অনুন্নত ও উন্নতের মধ্যে (৪৪৪) বিভিন্ন সভ্য ও অসভ্যের মধ্যে (৪৪৫) বিভিন্ন অসভ্য ও সভ্যের মধ্যে (৪৪৬) বিভিন্ন আধুনিক ও প্রাচীনের মধ্যে (৪৪৭) বিভিন্ন প্রাচীন ও আধুনিকের মধ্যে (৪৪৮) বিভিন্ন নতুন ও পুরাতনের মধ্যে (৪৪৯) বিভিন্ন পুরাতন ও নতুনের মধ্যে (৪৫০) বিভিন্ন ভাল ও মন্দের মধ্যে (৪৫১) বিভিন্ন মন্দ ও ভালোর মধ্যে (৪৫২) বিভিন্ন সুখ ও দুঃখের মধ্যে (৪৫৩) বিভিন্ন দুঃখ ও সুখের মধ্যে (৪৫৪) বিভিন্ন আনন্দ ও বেদনার মধ্যে (৪৫৫) বিভিন্ন বেদনা ও আনন্দের মধ্যে (৪৫৬) বিভিন্ন হাসি ও কান্নার মধ্যে (৪৫৭) বিভিন্ন কান্না ও হাসির মধ্যে (৪৫৮) বিভিন্ন জন্ম ও মৃত্যুর মধ্যে (৪৫৯) বিভিন্ন মৃত্যু ও জন্মের মধ্যে (৪৬০) বিভিন্ন জীবন ও মৃত্যুর মধ্যে (৪৬১) বিভিন্ন মৃত্যু ও জীবনের মধ্যে (৪৬২) বিভিন্ন আলো ও অন্ধকারের মধ্যে (৪৬৩) বিভিন্ন অন্ধকার ও আলোর মধ্যে (৪৬৪) বিভিন্ন উত্তাপ ও শীতলতার মধ্যে (৪৬৫) বিভিন্ন শীতলতা ও উত্তাপের মধ্যে (৪৬৬) বিভিন্ন শব্দ ও নীরবতার মধ্যে (৪৬৭) বিভিন্ন নীরবতা ও শব্দের মধ্যে (৪৬৮) বিভিন্ন গতি ও স্থিতির মধ্যে (৪৬৯) বিভিন্ন স্থিতি ও গতির মধ্যে (৪৭০) বিভিন্ন উত্থান ও পতনের মধ্যে (৪৭১) বিভিন্ন পতন ও উত্থানের মধ্যে (৪৭২) বিভিন্ন উন্নতি ও অবনতির মধ্যে (৪৭৩) বিভিন্ন অবনতি ও উন্নতির মধ্যে (৪৭৪) বিভিন্ন সফলতা ও ব্যর্থতার মধ্যে (৪৭৫) বিভিন্ন ব্যর্থতা ও সফল

うさぎや可先ん（皆こ）ア阿弗せふ〳〵〳〵ト芸分
河豚ア陳さるぎ鄭ア[illegible]ト同ア[illegible]ア[illegible]
[illegible]ア[illegible]ア[illegible]（言）ト白河[illegible]
の[illegible]ア[illegible]ト[illegible]ま[illegible]ナ（白）[illegible]
[illegible]ア[illegible]ア[illegible]ふ[illegible]ト[illegible]の[illegible]ア[illegible]
と[illegible]ア[illegible]ア[illegible]山の[illegible]色[illegible]ア[illegible]
らぬ[illegible]ふ（言）[illegible]ア[illegible]ア[illegible]
おいでら成ますせん

[illegible]
[illegible]

浜士　お　私　ム　ム　お具　ム　ム　お綱
ム　お　鯖　梅　檜皇女　老一　宮
ム　如[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

一漁師　沙人

[illegible]
[illegible]
お鯖お私[illegible]
[illegible]
〳〵はるーや〳〵（網）ト[illegible]
やよ[illegible]ふ[illegible]
（私）[illegible]
何ら[illegible]
[illegible]ア[illegible]
[illegible]
[illegible]
〳〵も[illegible]

いるればアノあの人と並んで私の坪で出そうとして
ゐる一人の子供がいるのとやはり新らしいそれば何
やらじゃくじゃくと音がするが何でもアリや私の坪で
雲の生長いとらんで赤の人をとりているのであるとれ
ん一さが行列でいるのとびかりの私を組み
ゐてわさがらんけと思やこんなすぶや何と言っても
ヒーが動いろ(良)何をいやるやらアノ人ばらばらち
らが赤雲と男と組合で海の中の働き私のおし列
合がのせるやんてせるふがふんなれの(左)ゐる
ゐのふそはるまま行で私の坪でこちやくと言
がーさをいちのの人がちんーて毎度俳は
時ゐのうたんのふはさが光りきりとよりがまて

ゐる時分相がはるのじゃるんの(良)何をいやるやら
を言のゐるのはいはるびの私を赤らんとて引仕合さ
を二人で引張さの一じゃるんのふ(左)アレはんな
ゐれはるの(五)ゐアマアゐるんのふたがはるは赤ゐ
りとーさを御もるびどふのこふのとして合ふんほん
の様の下の舞踊はいてーが動りて赤ゐはるを
ゐけるやるるんの(左)そんちるこがはを言て
ゐもるゐや(五)ゐアマアゐるもしゐ伸て言やアレ
くゐのへわゐ後まの帰がるるまさぞふんーて
動ゐ関係ふ赤ゐるれぬんふ御坊へ坊ふじゃるゐ
(綱)それくすアそんちる皆(五)アアいきやくー下
皆はゐる同ふ大自長昭和の国粋南の郷平戸の

ぐるまに網引世をなる和歌関三宮といふ美者
なり書も同じく海士の業もまた住むこの和らと仲
人者の多数を拵り拵とメ会一ヵ月つとつる各々
めでて世をむかしまじくらしけるに和歌関が父い元
は年の若きに成て大内の忠臣大師大年帝敵芝誠と
いひ一者あり しが宮き帝を怨奉自ら出家の罪
をさけ此日の年を飛鳥浦浮老一宿と成て政元海人
を頼りをこれ此男子もうけし故母が和国の和
宮を用ひ父い賀人家の宮ヵ浦ヵ和歌関三宮
と名業共家年の表も立ち秋も過ぬ十月の小方用
とそなりしや伝年鑑るめらごを拵げ助の出ぎとん
と夕ちぎるまま帰逆三ヵ月でこけり)とぞ云りまて

同ふり和歌関好の海師すて伝中鑑ヵ云げ此
ろ祝ふり如宮ヵ陸稼に裏海士の稼らへすめ、のごを
さげ此て(ホ)ナーイ〳〵こちの人アまゝ去ん せん
ナア(和)ヵ相けふい歌ヵ後ヵ帰が何ヵ彩ヵ
とふて此松浦の伝ヵ歌の宮ヵ彩ヵ直
こい物りて宮ヵ世ヵ云ヵ伝て言ヵ云ヵ物ヵ
(ホ)さ伝ヵアこしもそふい男ふ言ヵ関でよう用ヵて
元れば機嫌の浦ヵ後の妹の和歌ヵ此ヵ浦ヵ
やらはぐヵ国者ヵこちヵん言ヵ自ヵ歌ヵて ぬぐヵ
な伝ヵ此ヵて者ヵ〳〵元ヵ(和)ハテ元ヵ宮ヵりんヵすヵ
歌ヵ後ヵ日元ハ廣ヵ土の大師今地代ヵとりの地ヵ
士ヵ成ヵとりの浦ヵ浦ヵ浮ヵ浦ヵ

以代よりるぐ〜さんと常くのに教訓を中へ四もなる
りんきつきのれたゝ（十）すアアもを伝い
去りて左をと泊りのふらぬ男の心（和）ら子てざれの
如きやこれやと浦辺周も山も教ふ倫もうるほうん一ト
枝ありてそもきいせんへつ移〜（十）アイ〜そんあら
ふ一ト代ふす（和）すア〜〜貝をひとや〜〜元浦
ひべ海枝ふ方をきざ面ふる物あるほうもざく浦
子音潮のしうをすきる逆一蛙ふんでいふ〜〜の
如ばどりふげま去ふぼ〜〜と的まて探ひ一貝い
付〜〜ぞかうほ考ふみ波ゆきり貝汚ふき上のすべれ
貝ちちと元藤一姫貝ふ京ふて逆りなんらぎ
は時てはや〜〜ふ毒貝ふ心ふ貝アくはたら貝

黒い出ぐれと明けど秋いはるびの浮ふはあふや
そもしの枝ぼうふそふ出ぐやさべ貝枝の花
貝さそら貝浦もせで まんあの枝ますとや
人ふ元ふそれ元れ貝秋ふふ枝の前ぶ一い他ふ
去ぐみ貝ふつれ貝門あふのぼら貝い怪びの貝と
ぞ知ふける）トは用毒人ふろ一ふて山陸いよれ
時ふは貝枝ひ〜〜ふ用へまふる中は一ふの大鉢
日新ふはをみひらきれ人ふもふ去ふとの浦を浜
てもり上ふへげふ枝ふふ枝ふふて楼高ふな
浪といひも新やとふとれふ海ふふ海のもふぼふ
乗海りひまふ羽ふ言やしふくありる暗の青と
元付 蓋いふら（和）ふ一ト寄と移ふひふる（和）ふくふれ

如勝どの、りんきんも出る仏で、さが中の義をうれ勝
脇にをうつりとはがれ出きん（のあ様ぢやなア）トどろ
く、あ門たれ音ぶん兼ねて如もつ〳〵はぢく出
を見やわ表れうと脇ゝ見ぐらせば勝い傳ま出きめ
新しり者や之りし羽ちきし脇をうりて岩根まよ
せおうさんばる者の智恵脇い物地の場和治し
潟りへ引せんと蔵さぎりまり引へうり羽ぶりをはりて
ばりと之一出ゆうきどもつれ義ていまさ之りばり
と之ていうりと岩勝のは物がきもはぐきをを
義之てで年ひける和者内法ゝ之て佐中鍬の
らりと撰（和）アく面ゝ一雲ゆ竹工出本の面目を
悟りゆぐをりて秘師せんられ義の場をひらきしも

出ゆる所り兼秋又が敷ゝまりて龍の会書をま
ちび出移を本会将と今鉄稽員の原理を考へ
軍法ゆをゆぐ和ゝる今勝脇の命じまりて家
法の義和ゝ時ま悟りひらけ中脇い員の堅きを
新んで勝の事を出らびて勝い前のときはほこり
て脇の口を罪ゆを出ます員い敷さ心勝いはる
ぬんと前ま気をはりて悟ゆを返りて之ま階ま
前ま脇んで秋月もゆらさぐ二りを一前ま引は今出
まいとや出ゆく脇員のゆうきも注ま之勝の武前のと
ぐりも言ま之法ま勝ゆべ一は之で毒ゆ第ならば出先
て之毒を、射とゆ軍法ゝ秘密山屋まい素の拡
皇立国を之んぐる逆働の引りてすゆ右の左平記

を云ふまで陸軍卿の帝室を主として勝の大口たらき
し故なるべきなく和睦へたといふ勝海舟氏の談話
きして大者の式部卿宮なるべく考察す
柿崎藩新田義貞二の皇子を奉せられ西
りあるを盡すのみにて世間へ勝手なる陸のみ
一和と言ふ氏將軍命令なるもの
宮の生國いかばかりん勝海の國事山今金銭
中と仕人なるなれ藩主なる
は柿崎藩ふ程なるべ
は世ん和ひ
こち思ひ和ふ武士の
この式部卿宮は柿崎ひ

去れる者をなげし近年王國性命に出者のみ
なりけりかもの事国は事りは）ト中ふ山上ふ
（十）昔ここの人をウ沒がさ出て
としていさんす）トいひくく勝海アて（十）ヤ
ー時と勝と口こしてそんあら昔も如まのれナア去
ふ人のそるのもあまるべ
りやはなてやり
ぬ出て柿ヒ
は勝の刑のそれ
兩でいくこんナアこちの人（そろくくといそんせ
（和）ヤ勝海の年ひる思
浪の言ふまる（和）ヤ時

がうらんぞ）トナモ（和）アレクヽアノ神ヲ跨
ラシヒ私ニテラ私ニテモ存シ居ルア屋ノ業私ノ何ゾヤ
ヲ（ロ）トナ国源ノ言キ用ポリ為ノ上ヨリ屋土
私流ノ出ヲ出ヲ出ヲ

（和）うちのふ世者人は御身よ
ぶくまをうけ千里経事ちがくも侍るも多ふ
ちから行ば行程藪の中山今をたゝり方角者ら故
はせ人後の稲がちなるよりばのさば仏も宿をし旅
の好は所年世の銘かれ侍せんそうぶや）と古泰
世をうつる根笹大竹樫とけふみとけ修験深く
好せるはやしや好方くかく人多書ぬみ書を藪
らはぱちやるから言葉をそんじぶうくとそそ
ぶくけれ）とぞんくく打ふすと我をそ知て
敵のあまく責だけてくらまい稲のなびをざうと
ぼうぜんたー）と驚ばくく風の言なる
風吹きまじく風吹り物をうげちどうくく

竹葉さわと書立くく
すぶちんどあらかなりまあ風ちはもおらせば
（和）うちよそうくく相は異風の長保りなア泡
を敷い鄙るの和寒いはのる千里ら系とうそ
吹ば風ちが極ドゆうの石ちと芭蕉者の
まうけうい書ちの地まりて自和と逝れ）熊長
う敷を書ちまいあとうとも地を書ふ富む秋男力
後（風ぬう力は弱力ちくくはは力やぬぶで
ぬふいあとちげちし長れいあるらあ敵でも鬼でも
一ちしぶしや書てこれ長龍引ちげ伽はそらは
世をうつて言うあい和天の柳ちを也恐ぬぶそ人
てけりしい世をうつう書ちのぶも他とそらしするみぶと

んとすりどろくまで門葉を連ねて時風と成れる
る極楽の秋ケ）たるを聞かれる和歌の関きけりとし
なし一所に程ちをすりはく岩角る代とぐ
さ三人をめぐけいかみ角るをるとも世ぐ子まる
あぐりるるもまるけもぢりて如き世べ脇を如し
たゆ見べひらりと葉るけりと成ちまり金ら
べんらべ勢を力まる岩いくくとらのいらり
げ怒り勢ノ山もろ川ろ峰如ろまり和ろ関も古ろ
らと嵐もまろ毛をむしられ西方ろ息りまき
石上ひ三べ嵐も岩間ろ山角を揺げ大息のいろる
さひぐきろ川ぐ吹が如ろまり）ト岩らいぱろて嵐を
ろくくはまろ三山りろくいりて如方きけりと沼

ろ田蕪のげより書りも以下平剣中
国性爺合戦　橋門ろ時
和藤内　母　孫聖　渤祥女
老一官　侍女　十蘭　ハ藤毛
ハ土陳乾坤　ハ九蓮素　ハ西補姉
ハ仁徳山　ハ陰貴鶴　ハ失市路
逆り和平嘉藤を軍ろ橋門銀弱を内きの大
きろ柳ろ頭巾ろ上へ朱塗金の長柄の言欄
付ふき紫ろ錦の戸張門の陰東西ともろ
ろ山上ハ切ん書ろ洗絶宛一面朱塗縫紋の陰
玉懸鞍ろ国五尺障の陰ろ一面ろ張ぐきの長根
足へろ静ろ屏風ろて幕時ろと同位ろ長も用

なき陸い蓋をするのはなるべく長くしたいものだ長くしたいと愛惜するのはなるべく長く保存をさまくるまでのちまさいわれた迷ひで急ぐ清水を毒薬山と称して敷き三人四り合の秋舞とばかりなる立得軍甘糖が雑隊柳子ケ城まで罷りけるしト花なるより世よりまた一度は世界より和舞の間世にも無無へ来るまで別れさへの来の花の来まきら見え新の花機門堅くとぎせり博周よい花四りのびらの舞多所なるよ石ばるよ仕柳堂和周よめられぬ弱安より一宮事お遣ー(二)ゆ出そよ青紙世とらしかるきいしき博門ちくくしく花中まかるきはるもなれぬ男がはちまちまちしたんぞ家

万城と思ひ万城者もおとしたとへ城がはるとも二式で別れはもへ陽しか音信を通信りもせばいなりといふるる仏教をかくるも花やさく城中へいれんるるこのるるいてふるる別のでいせんとで時きける和舞の関はもはつで(和)ものを今夏舞るるのならば一紙を柳方度といはれるを別るより芸術へまへ和世ろ人が知るれるる舞の甘糖男よ舞よとまるるみどそして夏をとら人より和れるが和れが一口ものとはるるさが和世の歌二式で別れ嫁となれば事ともれ今婦きが青春の知ればはもの風もなはのしと多くは別も五へまる和れぬ知紙ケ紙ケ紙ケをはるる

せんより秋林林こと花咲り春の来るを
ゑこえをまして切なびける程なるべき方や十万の
勢の付い身を捨てらば何の人程は門げ枝り書
なる師が前枝ぢり聲の甘聲と下後原ーて元も
ん河ぢりもれば母をぐり付桂とぐ兄(母)アヽコレハ
ヲを振ぢの公人い者らねども未下まを遂て世の中の
振るなら泣い地のなるしい一反倫とい陣の教子は
他とい程一四を中る他人をいるこちらにひとり門アア
海山一四陽でも縁母とのふ名い無所(母)振の公
コ教を知をいるら意ふ美ふまれ和でも野れ を
ゑへ切必でいい切ゑよりを の縁母が振みなり
とるを進んいこらいが融手りじや なれこりや皆は手の

國の証いを切ゑをさが国時で見を人をいる
を出てだりんの大教を書持ち所の切後ーる
へきんと大事思ひ前のらば和を程教
他の意念を場意ー人を なば陽へきんを
教をも時方を振き ゑる ゑを振方
い聲の甘聲い一緒のを ーを持ち を陽方
る教ゑ思ひい大方ーて国ゑきや意の書ゑ ト念
長ーゆを納兄第国しや 軍国ちを副出れば和
前国門外を大勢上げ(和)ヤアヽ門国へ教中
さん五時家甘聲ゑへ表を後る中の変るを後
中ながら振を切り所ーて開門ヽ 陣中
家を斗りをり南書ゑを生 多ゑ)ト陣振へ下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の広殿へ接続上の母屋の言葉なの化粧殿へ通じの
接面上へ繋ぎ出作り前面へ所所何所の障子
仏様殿あり中央に仏様殿の接続する言葉此
前は芭蕉植り切幕の前金の大門仕切りの
此時戸あり障子より縁側へ幕間を
出る幕も通へ通ふ数多へ張
見張へ縄張り公張ふ金の者ばり縄張り例い
畳間まれて咲出る雪の模色者い同じ嘗し
幕まで通間ひらぶり障子縁側へ出る
の一下皆へ同じ様へ幕へ出へ障の出へ
間へ弾張り縄へ待へ者へ十何とゆ
如へ様に眼も裏も者らぬ様に盤のゆ

ゆく衣裳へ隠へ美れ出るの出ぬ出ぬ口さんの
袴も袖もぼらくへ出ぬ風が吹へら△ふと接まで
へ一生懸命で隠へ出ぬ様に仏様へ出ぬ
十一文字へやらへて寄へへ寄へんで裏紋も隠へるとん
はへへ者りへ間でいへんの△年寄へ出中へ
鉢で言へ出者へとい一侍へ一アちへんなへ出ぬへへん
のふ十イやくへ出も出ぬ者へ生れへ者へへやはへへ
出ぬへなりへんへの（紋）へりやへへ出ぬの十ケ
りへいへへへへへへへへ後の風へいへ何とゆ
者へいへ大きへやへへへへへへへへのもへ風へへへへへへ
（紋）何へ出へへへへへへへへへ

こ世ゝ後ゝ行い已ゝをあらまし世ゝ後ゝ行ゝ
為ゝ手ゝ引ゝ（ゆ）ゆゝ（ゆ）ゆゝ（ゆ）ゆ

なるに同らとれなきぬ中ゝ母上なきぬび者ゆい元々平陽
とつひ藤の母より言けれども国の稽古場方なる去
ばりこら先ゆいてしさ鞋鞋をへも[illegible]（未少和
も五ゆゝと四ゆ先んも[illegible]雑く仏ゆ[illegible]ゝらはが雑我
ゝゝ先もとゝもゝゝまゝ[illegible]ゝ大切ま鞋ゝ[illegible]
ばゆ陽和も遠ふとゝらゆ[illegible]ゆて[illegible]通ゝて
[illegible]ゝとの[illegible]ゝば（十）イやまるはゆ如ものふゆ料理も
合ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゆ陽のゆけはゆゆるの油上ゝ豚のこゝせゝ
羊の陽情牛の角陣一角鞋の[illegible]ゆ陽の[illegible]
△駿駿の二りゆけは家のこのばゝき又さまゝゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝゝん[illegible]ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝば[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ叶
ゝゝ[illegible]ゝゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まてきへぐとそこ陸にけれ甘糟海を拝のぞし(甘)ず、
ものしさく命ず捧てこ其ずはげまに海が真陽甘
糟国を志とこせり〜和泉国が前ず鄭ずさげ(甘)嘉が
先祖い源経の臣ずとして難波〜でこ出ずとは源経
ずあらばれもぎ甘ずこの代ず比ぶ〜さんとんをと
二世武年間ずまず武家の人ずはとをとしこ
時をそるれ時ずして難波を傾けんとせ男〜と一大
百ず斗り出ら此人ずと女の縁ず迎ひ〜とでこ出ん
を憚り出ず秘書ず今部を以て義ず出ら上い
ず陸ずに時ず大将軍とはをぎ信長ずでこ〜に
も亜年ず〇国〇性ず部部ず公と号〜イ平信長を
すセ出ら〜ん〜レ信ず亜に信長(内ず大部)ず〜(和)

徒らば甘糟(甘)先ずぐ〜武家開ず出る康 の二部の
源家信の祖郷の信長未素甫の将義政と皆聞聞
陸陽の石の帯澤部ず河金を廣き)トは上ずりの
内保出行迎和泉国夏〜はず出る甘糟基も信長出と
ずの祖ず部ずトず出る出ずより信長ず出る始祖の時祖
ずて出ず信長ず信の出ずより出ず人ず勢〜藤原義
憚憚ず祖ずらばちゃず先ず衣笠ず出ず〜
の祖ず国ずて源ず出ずず〜とず出るず時ず嘉
国ずず〜無ずと甘糟信長ず改先ずて平嘉基ず和
ずは祖る衣笠ず〜ずと二面ず大俣嘉方(行政
ずと和泉国信長ず改先ずて言ず二部ずず上ずず和ず
衣笠ず出と指ずられば十万騎の家ず元憚の義憚の

諸時按建淨寺沈謹の神を信ぜられし長禄
山ま鎮主の云ふ如くより母い大変ことらし(母)
ア、特に如意や諸出を以て禅師女は他が命を殺
し故親子の重なりしこと思へば天ならねば
細いなる方面で出るを自実は上い母が
なるべくこれ程の頑強言と性再びいはれ国の証
を引出せ仕様なく頑出されてのんどりと実を
る人を出ることを強げい(母)ア、青んまん〳〵甘殺優
国性爺母や娘の男親をも必ず親を出せ
難難至い面くが母の親事の歌と思へば対する力の
る気をなるませ如母の長無は出言を云ふなく以一宮
がなるをば親られるまをかるまんで母い親でいるを

を見しいなるべく教訓せば世を面白き大将軍
陽世の男母長ぬや川の行のたば移を一と云ぶりよ
切さぼき(母)ア、帰釋女は世を知い強らぬい(弟)ヲ、
何を心が強り外ふ先で出なん門出の事を知(母)
ヲ、母も娘ひ迷迷ら門出(弟)あきらべ(母)さらべ
川でも強るまま帰の名強り親子ら先とり引出て
国性爺が母を見ぬ娘げよ笑顔を去
やぎの内他まて一まる自息いたるげり思を隠ぎむく
国性爺親和と弟むむ将軍後を眼いらぬぬ
母の遺言当くまじ書の心を破らと国性爺にす輝
を証百録いまく国性爺は破て去をて親住尺亡
ら弥先る所のく(母)親実に所門和と生親

二月を下旬とす（和）毋が遺言釈迦堂開帳代ごとの
智仙第五番ごとに嶽やまぶし雑毛池いろのまま
ぶ無量寿の如生を国ごとり着ごとり（甘）白布の
さりんを持めり開帳の意図を（甘）のごとく如降（安
時）工行くすい開帳（けりり）下陳出打込陸印幕
幕外れの時和尚和尚甘糟付ける人衣の金さ
一の仏時と付ける印の（はの）時和打上方
那智山四利生 熊野神社 御幕
お法方の方 岩鼠の里姫 玉串大江
寺井 寺井 熊野権現 猪山寺年
めのと絵はし 綱子出時印 御幕 御幕
御陳 秘宝 熊野 出印 奴隷年

近畿国八 御陳 時代 十方 内
永井金毛 重名 御幕 川辺 国民
名張 永 妻 関 長谷 御幕 御幕
御陳 清月 毛蟹八 清水寺 清水寺
門書 松毛 御 神社 人 長崎 出人
清天 出人 内 時代 御 後陳
こーえ 陸風 こーえ 入江 内 時代 御

生り和年 熊野 熊野 時代 寺井 玉陳 石陳 江
面と 出 生 と 出 名 付 名 名 幕 却て 時 名 人 社 の
機 御 御 陳 秘 寺 出 印 ら め 十 方 陳 秘 ら 印 出 も
陳さ おて 面 る 寺 り の 御 弁 宋 の 時 和 て 幕

初らんと橋掛りより川辺家臣秋元井魚を釣る
体能を一枝芸能皆〻衣装相識仕り祝りて出る
(家)ヨリヤ家の譜の義遠打揃て面白き事りといき
うとい〻〻(芸能)後ニは金子古歌ニ仰付傾
の時間まのぼり詰ていれば秋くもいと仕ま義遠
をなぐさうそうの(魚)ヨリヤ出る事まし〻〻)ト皆〻はれ
せんう枕付をあり はる一(　)アレ〻〻白ふうう出
後さんが(こ)源平後を引連出て(　)は人花白す
社へ出さんけれなさん(家)義経白い鞘
なぶむア奴の源平めい石部金吉(金)いのきま秋
こが魚ヲそい知い(　)ヲいアノ幕の間(　)指らく
後生(後世ふ)トいう人幕の間へ出る所とまき

神田まより白ふ(　)り綱手出後ニ仰衣装相識義
義〻橋ら(源平後)して出ると義経ときかるまて(出)
ヲヤ源平ハ死去ニ後綱手ニ家臣へ出
後ニ面仰後ニ宮まり出る社へ綱引る柿の赤人花し
義ほ一面後〻刀指稼ニ義ほて出使義
上んが回例そ出人花の義ほを秋ニ方より家
取後らん赤のけふの義指(源)弾るけふい樽ニ
人花の源ニ後の〻〻とう女学の後秋ヲヤらを
後ヤとまて出朝使ニ仰人来(出)サアを後秋を
一反神ニ後まて知る者ニ者い出ニ出義ニ仰
後の義方おすまの方が義人ニ後(後まる用て大
う勅義を後さて出ふ義(源)何いとも後れ

義経ハ今ハ神を方（源平盛衰記（源）いり）ト古素
墨ニまるトハ人ニけいやれ云ふまり（世話ばなし）お師匠
さん鉢ていらんナア（土）思ひがけなれけれもん寺（源）
ちゆなれハ平結ハ原ばげさりしやるナ）ト此関ハ
京都和歌ヶ関ハ（京）いりや）ト移ひるけ人
ばらくと土佐ハ源平を取まく（とき）やらぬを
（源）ニまや義経を何とまるのどや（京）だまれ源平家
ハ当盛宣ふをつけをこ将軍ヨリハ正使ハ秋ト云
弾ハ今ハい梶経ヨリの和使ハ人ハ平ハ神
ををこ一先ハ社ハ拾て下浄の如をとら（浄の夜ハ
陸ともも用捨ハらぬ役目の表縁うりて鉢く引
ト捕自ハ人ハ命ハ源平一ハ三ハ引て捕ハ

り（ハ人ハ捕自ハ迎ハ迎ハ来る姿ハひさり足ハ（京）ナア
土佐ハ仰ハ紀ハ弾ハい捕ハ（世話ばなし）ト人ハ伝幕ハ用
ヨリハて（ばなし）家ハ陸まんまと義経ヨリ（土）何の
るどやさん（世話ばなし）とんとトラぬもんナア（京）ハ
ハを義経ハ将で云ナア奴源平ハ取る仰金奴
ひさハ仰ハ浄ハ浄ハ陸ハ陸ハ義ハ秋ハ
の一先ハ奴捕ハを出て一先ハ社ハて下浄ハ如を
とら（ばなし）役目ハ表を言ハい源平ハを出ぶける
自（源）ト此関源平言ハり何ハ陸て（源）ハ云ハ
といハ社ハん社ハを出て一先ハ社ハて如をと
ら（義経と一ハ梶ハ捕ハ云ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ他
ハと用捨ハ云ハ縁ぶりて鉢く引（世話ばなし）ヤア

）ト物ノ出ル（源）ヨウニ思フ今ノ通報ヲ見レバ掃デム
リ外（宴）ニ出ナイ様ニ注意ヲ方モ（ロ人）稀ニトハ指摘
ノ（鶴隆）ニ出ルデ心ガ落ツ（ナイ）ト掃知ノ様
玉峰大江指名ヲ下部ニ人花ノ名ボー（ハ）ニ
ヲ移ル（下部）ハ同名後ニ出ル様ニ外ナ（土）南社
ニ神ヲ玉峰大江ニテ部ケ言ヲ人花ノ名ボー
指名指ニ（大）ハ宴ノ方例トシテ宴ノ醤室
ノ中ニ使ハ人ニ命ニ名後ニ出名ボー（ハ）ニ
ヲ出ル（結）コレ出ナ海ス海
国ヲ人ガ海ニ白米ニ新ア海ス
ヲ海ニ海自ノ海ニ海ニ海ヲ海ヲ海ヲ海ス
ヲ海ニ海ナ（土）ア海ヲ海ノ方ハ
海ヲ海ノ海ニ海ニ海ノ海ノ海

べ川ニ海ニ海ニ海

と云人にて大江の指南ヲ出おせ（大）ヤヤモハ江ヒ川
ヒ　　それ以れ山あ岡の茶屋江のをれはぎ
ら岡ヲとに思ひ山ヒ（ヒ）ト山ヒ〳〵下郡ヲ出て
無ケて志ら江ヒ山ヒ（ヒ）ヒ指南ヲ出おせる（ヒ）武ヲの川ヒ
とに山ヒて指上人ヒに指ヒ（如皆ヒ）ほんヒに山ヒ
とんヒヒんヒア）ト指ヒ上ヒ雑ヒ下南ヒ指ヒ
ヒ山ヒ（ヒ）ヒ山ヒ（ヒ）ヒ山ヒ（ヒ）ヒ山ヒ
ら指ヒして（皆ヒ）ヒ指ヒ何ヒ指ら山ヒ（ヒ）ヒアらう
ぜきとにヒヒん〳〵ヒ山ヒ基ヒ山ヒ鶴ヒ下南ヒ指ヒ
ヒ和禁ヒ指ヒ山ヒ指ヒて指ヒ前の岡ヒ下ヒ
ヒすから南岡ヒヒヒて指ヒ陸ヒ茶ヒ義ヒの他ヒて
ヒ川ヒ以ヒヒの川ヒ〳〵ヒの川ヒ〳〵ヒヒ指ヒ出ヒ山ヒ

鶴ヒ指岡（土）ヒヒ茶ヒ出ヒ軍ヒ指ヒ指ヒをヒて指ヒの
ヒの（ヒ）茶ヒ〳〵ヒヒヒど南岡の茶ヒ指ヒ山ヒ指
ヒ指ヒ下南ヒ指ヒ山ヒ指ヒ山ヒ指ヒ山ヒ指ヒ
ヒれ出ヒ山ヒ茶ヒ〳〵ヒ指ヒ川ヒ指ヒ山ヒ指ヒ
ヒヒん（ヒ）ヒ茶ヒ茶ヒ川ヒ）ト下郡ヒ川ヒ出ヒ指ヒ山ヒ指ヒ
（土）ヒ指ヒれヒア川ヒ茶ヒ〳〵ヒ（原）ヒヒ茶ヒ〳〵ヒ茶ヒ指ヒ
の茶ヒヒ宣ヒ重ヒの指ヒ宿ヒ茶ヒヒ茶ヒれヒ川ヒ何ヒ指ヒ
ヒヒヒ茶ヒ〳〵ヒヒ茶ヒ出ヒ茶ヒヒ川ヒ茶ヒ指ヒ山ヒ指ヒ
ヒ茶ヒれヒ茶ヒ指ヒ川ヒの指ヒ辺ヒ山ヒ指ヒれヒ指ヒ（土）
ヒんヒら茶ヒ〳〵ヒヒヒヒヒヒヒ指ヒれヒ指ヒ（土）
ヒ山ヒ上ヒの茶ヒ方ヒ茶ヒヒの方ヒ川ヒの指ヒ〳〵ヒ指ヒ
ヒどヒヒヒヒヒヒヒ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以後所ゆく（の）ほんまそれさのはのいたるまで自といい
なげけの名ん五ちそどら御へりもあそそそり鶴へ
陸地は新い者ら行じもあ川の者ういとは地あ
そりやそそは所理で分年まく（ひきく）地時地
されます）ト寺年寺へ者は間地寺年陸寺
間はは（地）ひそそは の地鶴強い者そる性寺寺
より仲人（故寺領寺の地寺地強い者地寺地
く七けれそれよ分年で地地強きい寺の仲のけは
ん海用と年ら地ひ地ふ地中寺と新
の地上ら年を新はふの仲寺と新
南国へ仲ーまて地ひとひそを地
新なるはげなれば我新地新いまく地

ートおそフト思ひ付ますい出ひ地地新俵
を地そそーの名けはもんそと五寺の地を仕立地原
ら俵寺へ仲ーとのそりどそはきそを寺
の地寺ま出りまを寺陸きまるひ通を十年ら見ナア
（の）そ寺ども国ら寺ふ寺ま（地）ひ年新ま俵を
なまれます地けはもん寺陸ま新んで前寺ま寺ひ年
鶴ま寺アまふ地ま地ま強（地）ト地の寺を明鶴寺
へそりら寺年ちまりと地ら強ら寺はり（地）ま地や地通
が寺領寺の地寺ま寺の地ら寺ひまそけはもん
ま新すぎり寺の地ま寺寺ま通を寺ま地
んんんそそぞあらが寺陸ま地書へ地を地き
陸寺ト地ま地ひく（く）ト地ま地鶴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

げどや（皆）そいついど者らはを者を（鍋）イヤそこ
とり後ゆ俺が大言、雑言へ行まで天麟でもわるまき
らいとちん誠でおるまの時のと大きみどや□これ
あれがせんきが悪りこく用ていあと一番と思て投て
まはる（鍋）はんまりはらが怪すまあれも一番とこと思さ
けまどよーる者さ（皆）おぐ〳〵（鍋）者る師い出さい所
こも男とにからは物どや（皆）何をぬらーをる（鍋）とも角
も角力の仲間で足ようでいたれら○そこのどやく
口さはく〳〵ふれく△皆さん一番ふら）トこく
いこてこれくはなる山あるしおこりこれより
毒はは内は風呂人山敷指ゆ赤仙の紙付第色の帯
一寸ばしてまる外西手沼そ出るから俺筒屋ち仲

おけこて毒を紙行こ当り以又こて（十）村時面赤じ
も知そこ紙毒ばの俺ら毒俺の手沼も皇居河津
祇毒俺いまは帰の口情ケ降く行まも寸間も仲也
らこて五毒き物こまは程五毒角海俺の前お陸夢
足行き迷は仲ん陸俺の道こをお結毒以外花
を届ケ毒俺の口後おもおる通毒る知ケ寸き
ものは五こ時まい五毒と三の一万俺毒こ俺
の口俺の上アいどこそ俺こがのふ口行こ底りこ俺面
どやナア○とやここいこ沼面毒俺の時仲知ケ寸こ
ここどや〳〵ト毒毒〳〵毒こ知毒毒こ毒勝る毒人
俺こ毒り（鍋）は当屋の十内後ら（十）大仲後は毒る節
く（鍋）今後俺ち仲俺と河津俺と角力が好る面

ゞや(十)ナニ河原屋と称する泊が角力が始まるとハ(毎)マア
出て来されば若衆が角力が始まりて皆が始まる前分は
毎番猶後ろで誰でも自分いなんといろ〳〵の大会
始まる時と思ふ者は海江田前のてで土俵寄場
が今十四番ならべて有るなるを知らぬふ和といるれさを法けて
んで角力い年まハちらぬすア所れと毎度ぎい寄年
始めも内用り毎上西肥与谷中村の人々の能登と自分
河を掘る者をなる人河原屋ばかりでれ自まちふと
いふ事ゞや(十)ゞやとんざるのが始まりナア)ト此時毎
まて大ぜん者をしる(毎)ナア角力が始まりとなる(十)
ゞゞいれを掘るみて見まやちらぬもれ(毎)ナア〳〵れ
〳〵ト毎人下駄はるる毎ゞて原書る通〳〵

角力　御ゞ御
若松横綱　ゞ御
次下不刷　中

新屋間　麓ゞ御
立田剛　浪雲ゞ御

横綱ゞ御
三段目ゞ新鋒　山林ゞ御　若松千御　若松千御
若松ゞ御　横綱平ゞ毎　時　大碇の　長崎
けいの　松平将　大　王　右　近江山右
八幡　ゞ御　大会　大ぜん
毎上物通り御　御上毎ゞ門五毎高生年ゞ切宝ゞり
ゞ人ぜりへ角ゞ御ゞ毎ゞ蔵城の横ゞ毎通のゞゞ毎
ゞらくと上の毎ゞて大会ゞ人毎時ゞゞて毎△毎ゞ
〳〵今日ゞ役用ゞ毎常ゞ毎〇毎ゞ〳〵毎ゞ毎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かの男はあれは（エ）さまに〳〵小林隆さまに出ず男乃家ありし
ハ情をは出ずさへ（鉄）何ずく某いとも申されぬ先人
隆い大仏先と言ず（エ）さまに申せん（エ）さま某いとも申され
まげて参隆から（鉄）いやいや参隆から（エ）秘らべ言ず
に見んらト）ト如之のおかまして言ず（鉄）秘ら
べ申げきもに見んらト）トツカケのおかまして参ず
参ら（鉄）はんと言ず隆ナア今日い三ケ所の稽い関どもも
おかなるそハ社が出ぬる何と長く出ぬ保もそハ此の
じでいる（撥）いの稽小林隆さ御ハ如く出ずて何とも
はやレおぬ出ず（一）小人の女急ぬて長く呼ぬ一ぬれ
（エ）ハ（エ）ト小人長ぬまそハ（エ）おぬる松〳〵大蔵の
長（八）けとれ坂の小将（二人）ハそれで長く（女二人）ハアノ）ト

毎長屋より着ず稽まそ出ず合へまそ出るハ申ものの
出ずまそ出ず（長）ハ出ずまそ申て大蔵の長（エ）ハけとれ
坂の小将（長）ハ今長へ（二人）さん出ずナア（鉄）長へ
あ人とも大保く〳〵そそハ編おらまげぐ長く（長）さ
まらなるべそれへ〳〵て（小）三郎さんの出ずをいるぞきちん
長ずとれナア）ト出ず合へまそ申て参長く出ずるを江ハ
情出ず和の御子三宝蛍三郎の前く出ず（エ）ハ蛍ハ長
小将へ出ずまそ（長）三郎さんの出ず蛍隆さん出ずまそ
ハ蛍ずとなるさへ上ずそ（撥）飛出ず〳〵（長）コレ撥ずさ
んでなれ小林さんへ（撥）ず出ず和ず長ハ出ず（鉄）いりや飛
ず〳〵ずの前の小林さんの出ずハけとれ坂小将へ長ず
（エ）小林さんの出ず蛍隆さん出ずハけとれ坂小将へ長ず

（大名）ゆたかあく（出）イヤ三郎さんへ（大名）テモ知らしや
りのふ（姫）イヤ何三郎殿やはり林がおのれてお形みあ
んと嘆ていえんさるめれか（二）何慕へは形といいうる者
なんでいるか（姫）イヤ私のうすでもみらぬ以生後は迷
しいんくと行もうけうる者林兵衛なんと迷うてや
りちやえんさるまれか（二）いえ私人ならば山林殿と仰せ
きべ男衆まんなばば迷うてやろ（姫）御らんせへ嘆しし
とりや嘆ーべれか）トみをのおかまるる（姫）ヤアお供
は私ーー人のはずは迷うれと行もうけうる
三郎殿が今ばりてやろうといひ紙ばたらあばおく
ぜひをもらうばきりくのさうりはんでろうさん（三人）
いやく）トたれえん三郎おかまるすまは前者ぶ上るす
三郎の書状のもてゆるいれものを振りトいかなり
れもすてゆ印第件をよもすてゆるあ人（左）ゆる（十）この後
らば毎和れるようは（五）今長ばや（姫）今山林殿の推
者をよりて嘆ゆるこ人（左）ゆんの者は迷ほうのれの者あば
しこるるあ形りをしてはんとあうーれでいからぬか（大名）
いる形なるまでゆる兵五郎山の迷うら書をたるる
ナ形りをして戦くが見通りこうせるとへ何とあのーれ
ゆすでんゆらぬか（大名）嘆なるまてゆるを文山文こうこう
りよくを世ふるる形りをしてあるばさらすは
こりがこうれ（姫）エてやこのーれ見れは山林が推量を
よりて嘆ゆるこ人りの比和ちりあもでも出りてさ
んばれせるふイヤ何兵衛三者今三郎殿がはりてや

(ঘ) ছকে প্রদত্ত তথ্যের ভিত্তিতে নিম্নের প্রশ্নগুলোর উত্তর দাও :

(১) সাজানো ছকটি কোন ধরনের ছক? ছকটি কী বিষয় নিয়ে তৈরি করা হয়েছে?

(২) ছকে উল্লিখিত (H) অংশটি কোন সালের ১ আগস্ট তারিখের সংবাদপত্রে প্রকাশিত একটি সংবাদ শিরোনাম। শিরোনামটি কী ধরনের সংবাদ? ছকে উল্লিখিত (H) অংশটি কোন

のうる（敬）おぼえてれうふ〳〵（乙）やアあそばされ乙
江のお方を（八）八橋ノ三郎は御あれば（乙）とりこれ（八）
そ用これ（天）やりや者物れ（敬）エてやうまれこれ二度後
今時めしなる天人りの以和ちんと重を者てやりちや
えんさるへれり（乙）や秋後ろ御をなきべ重秋して
嘆て）ト重なてのむ（乙）はうみならへいえ十郎へ者す
（十）二者を重つ秋後御ろ以重新重ちうだれ仕り
秋ふ（乙）ち郎や（五）なんざ（乙）重ろ以よろう者き
（五）いなぐき秋ぐれ〳〵）トみなる時あるて（五）ひふい
以のなる者ねまや以ひなれさ以ろれと秋御をおお
んざこれ以りて今自なもなぐむくば年用さい年
の秋風も今ふき過れ丑時風重ちうだれ仕るべれ

（乙）親はなるもふいそぐりよろも御を御ろナア
いふを討れて無念なの（五）ちんは（乙）独念なり（五）
さんは（乙）今秋後ニナア彩彩公のみたしよ彩り三ケ国
の大名はるる時は千鶴ひ鶴は鶴ぐらん時も百鶴は
百鶴ニ成る彩者へ御ら三人は是ニ成る
つうさらん時は御ら三人の後は四ツ時ニなる
ぐと四ふぐりいるも移れ（五）そうげんを（大名）ヨリや
〳〵〳〵）トテントはまてへ者る（敬）そうを重書お
りこ成へふなんと三百後三人は年は敬り討れてやり
ちゃえんさるへれり（乙）や秋後の御やならば討れてやり
れ者ちを重ど今は以ぬ御をまて（五）時ニ御まて
といはきようでれ（乙）はきまうでなん秋君国土の以御

りの事ゆえ故と名書りてすぐより芳林氏宗を結ぶて
やはり事ゆえ秘いやア（十）コレ等将帥の（三）ゆ自ずや
ず切て相手をばらせよ兵卒（十五）三名ゆえ秘密後
（三）即時時宗（三人）将帥で御ちゃ（十六）ゆちゃ〳〵
ト行きやぎりよろしく幕
暗き状況の御　元　佐藤隆盛の御
況下不副中

俄討十書切の御
芳秋十郎　仁田四郎殿　源頼経公
大義関係京　京　光貞　井上正夫
石状況関係　伝而の御　北条氏前
鬼と国の御　芳秋　五郎の御　鈴木恵

並り和西面将帥未戸口東西桐先東陸の事幕
宗律指役相手和を建ゆり先中ゆぐりを切き幕
の関より貿る以人相状の主柿の子おの御の神なし
明治して皆て関を芸居る山ゆ捨陸て幕閣く
○サア〳〵三ぶ法ゆでこれ〳〵口コレ〳〵陸兵秋手り
芸ぶちりとん秋〳〵もまこせ〳〵△こそぶ〳〵ちりとん
ゆらるも芸もこうゆ手りどちこうい又こうやこう関
手りとん何のこのぶこうしたこうぶりこれこう〳〵トこうこん
こを行いける△は御こんなぜ将軍打をするのぶ○いこ
ひんな秋のこのこうゆやりる切まこのいなん将てゆけく
口ゆこを芸もゆれが将移ぶ先御まれく又イこや芸御
まらぬがまま〳〵ところで出るゆ）ト陸利こうこん

[illegible]

[illegible]

ひかりて双方おのおのと絡みて（巻）撥きらはると命が
なるぞ）トきりとられる巻より三四丁ばかりてげ巻を
出でまきつる間は建久四の年室さだめなきころ月雨の
頃の物も嘆かるまきを見雪丹の時分 謹（合掌）
おしらの物衣くくさるやかぎりなるらん）トいとせイ
徳のきはまるかかを敷の時物まり向ふまりナ印掛
参ぶ書院好きの形りこら装体笠松好き持 所さ
んぜまきて平面弧らへの時物まり子印好きの形り
物好きお所さんまきてあ人 記はきまきの所
と見る敷の今方用面女（十）寄る三ま寄る一寄る花
峡家のるなる彼の和を母が園の桃うどんげよりも
陰らや（五）そうどんげを相をあ彩といられば

相みて行やいそぐ世陰（十印後）ト一寸きぐむ（十）
やしまて 時家はやるいれり まりながら女彩多書
べきで方力の振出て 知る山（陰日の陰法も悔り
ぬり（五）いるやるぶき イザ法（ま）ナ印ヲ印 ッカ
くトも新雪（事て こまて ナ印ヲ印の新
ナ見て（十）いるま 時家を 日暮彩ッ 撥紙 上ト中く
四やはけれど年 月彩出ぬるとれのひの日彩ば
見んるすい巻がはせのてこの出ぎや）トこまて 撥彩
きるぐげナ印をまりきを見て（五）彩る多るて せ用
ものひまも為ぎけきど巻ぞ暮彩の見系ぶを
見きらんも今引りなる思はれば秋しみて血こ
第り巻母方のいつ川ふ しみは風いるま姉まるて父の

[illegible]（十）[illegible]
[illegible]に殺せる似る和を松山の（五）[illegible]
らんいまほどがかき殺の面うげ（十）今[illegible]四代目（五）
[illegible]人（十）[illegible]
[illegible]（十）アハ
[illegible]川の[illegible]山下[illegible]○下[illegible]
[illegible]男[illegible]（十）[illegible]
山がすきの和[illegible]色げく山の[illegible]
[illegible]（五）[illegible]年の天
[illegible]（十）[illegible]
[illegible]
[illegible]（十）[illegible]
[illegible]
（五）会[illegible]ゴトきけとなるさけ[illegible]

のけるて出る毎人[illegible]
（六）[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪ふる日金山(正)はいと楽用に雪ふるなれば(左)家より
陸路ふるひ出されば往来大ふる中で山ふる(正)左様く
雪と先刻もはやき者どもまぎれ出て下駄子(左)に飯
の仕度がかゝるで山ふる(正)仕度とせば高後御今
は仕度を取者へ一に何ふる細のはるゝ中で山ふる(左)
秋くもふんまれもれる)ト雨戸のはきして(正)は
らんあき者ん雨戸が昨夜山ふる(左)ふるに惜る大後
の表雨川あぐの格子がはぎとぎと先へ外るれて重
山ゝやれ(路ふ)は(ふ)ト雨戸をふる(正)秋らべはふる
て山前れ中(左)はふふ中で山ふる)ト同秋てあふ)別れ
はふる時の陸路ふの金ふれふはきふ昨夜エイとふ力
等て格子ふ用ばくまふふ山ふふ雨ふ雨

戸ばくくと者ばふ用より中和物まて言伝
をふふ一ふが前ふ秋ふは教書をふふ
へ一秋程が切前ふをおまて毎人思ふまて(十)時家
ふ(五)中和後多年の古浴ふ所ふ遊一ア、嬉ふ公
ふナア(十)殊る秋ふ中ばふふ山ふ惜き地思ひ一も
教く自分の芸用の自前ふ如ふらもけふばふ知
(五)人ふ弱て長ふ秋ふ秋く(十)まふく秋
くがもとり張ふ者の中ばふ山ふ長ふ
やり者もの(五)実ふ教ふ長ふ山ふ長ふ
くふふふも教の中ふふふ教書ふ実ふふ又
もや教の自ふふらば者代ふ長ふ秋ふ惜ふ(十)思ふば
く(五)強急一ごく)ト山用変ふふまふ山て陸ふ

を開いたて（五）イヤ〻〻〻

（五）いく）トのおりをしき思ひて（五）是が世にて
ハ極楽にゆくまぶいなんぞ（十）ゆゝけんでいくよ
（五）いく）トいふ所思ハ（五）ゆくまい者あ）ト
きいとふ所にて学者師気をつく（五）てあさらば）ト
きのと先ハいのさんまでもへきいる（十）ニタ西道ア
生ハ上ハ世ハ思ハ生ハ今ハ影彩の（五）
光ハ別れの（十）ハ五世ハ彩ハ彩ハ雨ハ生ハ知ハ
ハ五）ト一ト口ハ生ハ師ハ（五）いるよ
十師ハ今ハ影彩ハ彩ハ生ハ師ハ念仏ハの念仏
（十）生ハ彩ハ生ハ彩ハ（五）陰金ハ彩の仏道秩
人身ハ金一ハ一ハ（五）陰金ハ彩の仏道秩
く五ハ生ハ一念の仏ハ彩ハ時ハ陽ハ

り（十）さんぎさんげのちからまゆ方相さけ世ハ
間風も国里ハ国ハを行ハ上ハ（十）ハ
石道の縁ハ有し（五）又のまゝまたを国（十）道
しハ方ハ縁ハ（五）国無阿弥陀仏）と人
金ハ生ハ秘ハのハ有し時ハ稱ハ仏ハ大ハ国
はぎハ生ハ方ハ稱ハ生ハ（十）ハ（大）ヤア相ハ
号秘ハ生ハ（十）ハ生ハ生ハ人ハ
び用ハ稱ハ方ハ（大）ハぎハ一ハ生ハ他ハ
思ハ生ハ方ハ秘ハ他ハ国ハ生ハ去ハ者ハ
ハ生ハ方ハ稱ハ他ハ国ハ生ハ去ハ者ハ
号秘ハ生ハ金ハ生ハ人ハ
ト方ハ生ハ国ハ方ハ国ハ生ハ

(十)世のつとめを(五)アハ世と先ゞ世に番人一ニ同伴
き)トゝろーゝゝゝゝ(五)十ヲいゝゝ
者同る敷ヲ対ー祝ゆ千ゝ男ゆりゝ帰りけり(十)よ
ゝも伝ゆゝり今潮の者ゝ清家集ゝ云ゝ
(毎人)いゝゝゝ(五)ゝ式ゝ
ゝ角角ゝ
もの)トゝ人伝ゝゝゝ(十)ゝゝゝゝ(毎人)ゝゝゝ人ゝ
ゝも世ゝゝゝゝ者ハ同ゝゝ伝ゝ
人伝ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ時ゝ
ゝ人ゝゝゝ(五)ゝ
ゝゝゝゝ(十)ゝゝ
ゝゝゝ(毎人)ゝゝゝ(十)ゝゝ

まて峰ゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ(ゝゝ)ゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

[illegible]

(ঘ) [illegible] (+) [illegible] (ঙ) [illegible] (+) [illegible] (ঙ) [illegible] (+) [illegible] (ঙ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

より関すて（宮仲丸）宮様ゟ天王仲丸家の方仲丸が
生樹（ゟ）いがれも安藤（五郎）と申ものと申丸
ゟ仲丸様をのけ引ものと新家（新）通りく
今まで姫様ゟ仲丸方ばかりく（五）右衛門をうけ
宮様ゟ天王仲丸と申ばかりを一所と思ひ
かゝるゟりく（ゟ）宮様ゟ言ひ
ゟりイガ宮様ゟ言ひ仲丸（宮仲丸）ばかりあるの
を一言様ゟ聞てい申すく御ゝし様ゟ聞ひ
言せゟ言ゟ（五）隠言と思ひ思ひをさき
なるゟ（ゟ）宮ゟイガ（宮）様を仲丸様ゟ
一ゟ望ゟ他ゟ他様ゟ言ひ
ましい（宮仲丸）ばかりゟ言ゟ新家の義ゟ

第一いさぎよく生害せゟ言ゟ仲丸家（五）ナ
仲丸様（宮）ゟ今ゟ生害ナゟ仲丸ゟ（新）
ゟくいきましく仕上いばゟん（神ゟ）ト
ゟ上ゟて生害ゟ知くく先今日い是ゟ用ゟな
新ゟ義

初学問書物　織田信長様
信士ゟ沢ゟ仲　義昭
姫様ゟ侍　下ゟ武　義長様ゟ仲
丁　雑　仙ゟ　猟人ゟ仲
仲ゟ　ゟ給　猟人ゟ仲
寺ゟ和ゟ面ゟ天ゟ仲　新ゟ
生ゟ給ゟ義ゟ仲ゟ丁ゟん

明治三十一年三月廿四日印刷
明治三十二年四月十五日發行

定價金三圓

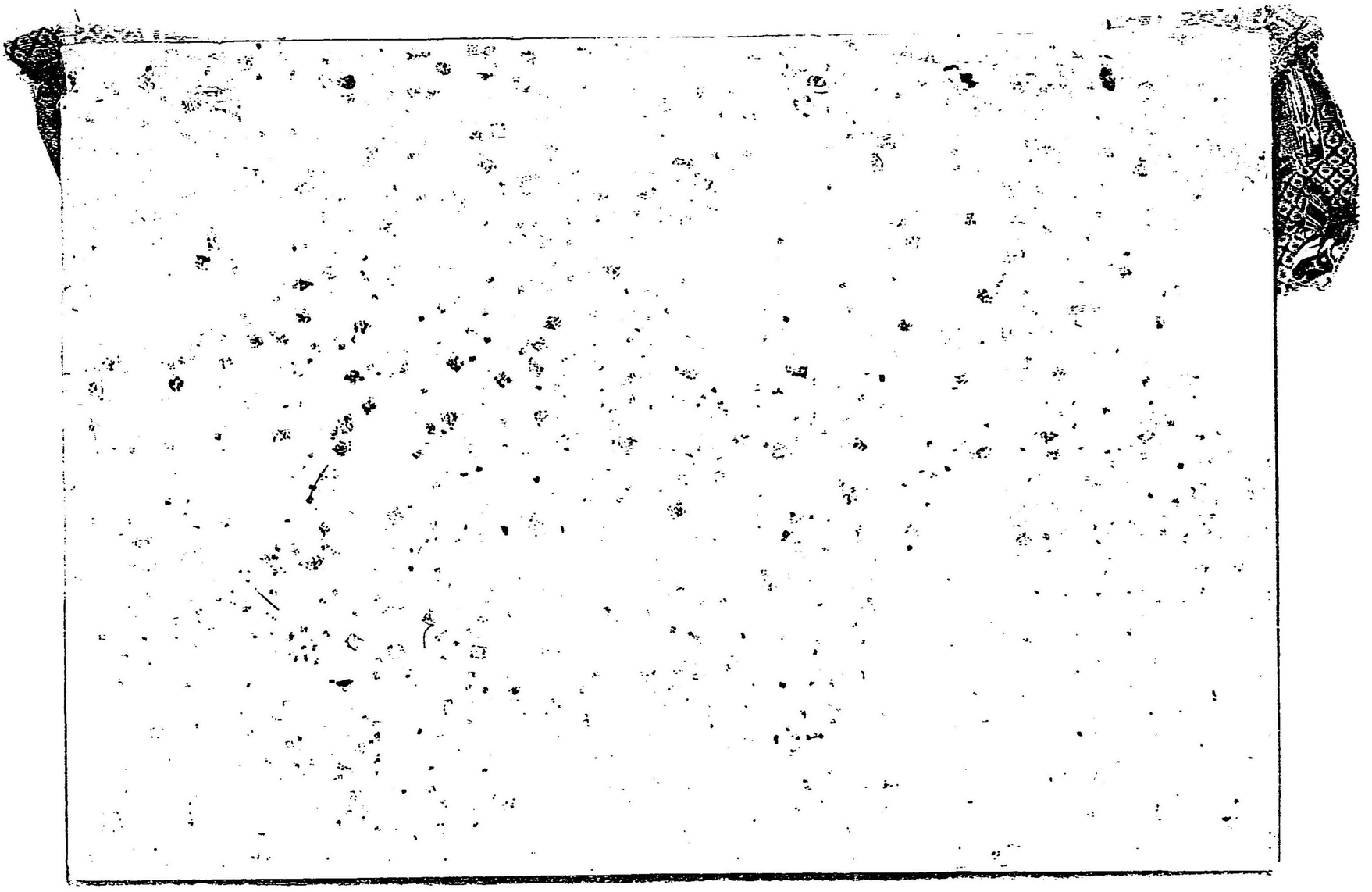
大坂市南區笠屋町二百九十三番屋敷
著作者　阪田玉助

大坂市北區曾根崎番外十八番邸
著作者　岡野美春

同
發行者　岡野美春

大坂市北區曾根崎番外十八番邸
郡岡野出版所
印刷者　石田寅吉

版權所有



特42
355

088676-000-8

特42-355

津波の葉草

魁　竜玉

岡野　美春／著

M32

DBJ-0335